

平成21年度  
バルク貨物流動調査  
調査結果

国土交通省港湾局

# 目次

1. 調査の目的	1
2. 調査の概要	1
2-1. 調査内容	1
2-2. 調査方法	1
2-3. 回収結果	2
3. 調査結果	2
3-1. 取扱貨物量	2
(1) 品目別貨物量	3
(2) 港湾別貨物量	4
(3) 品目別仕出(向)地別貨物量(国内)	8
(4) 品目別仕出(向)国別貨物量(海外)	12
(5) 出(入)荷施設別貨物量	14
(6) 船舶～出(入)荷施設間輸送機関別貨物量	16
(7) 仕出(向)場所別貨物量	18
(8) 出(入)荷施設～仕出(向)場所間輸送機関別貨物量	20
(9) 荷送(受)人業種別貨物量	22
3-2. 船型、寄港地数等	24
(1) 船型別隻数	24
(2) 寄港地数	26
3-3. 貨物の背後圏	28
4. 調査結果の評価	30

## 1. 調査の目的

世界人口が68億人にも達する昨今、資源、エネルギー、食糧といった国際バルク貨物の需給が逼迫し、世界的な資源獲得競争が起こりつつある。一方、四方を海に囲まれた「海洋国家日本」においては、国民の暮らしに不可欠な食糧の6割、エネルギーの9割を海外に依存している。

こうしたことから、我が国の産業や国民生活に欠かせない資源、エネルギー、食糧等をはじめとするバルク貨物の、より効果的な海上輸送体制を確立するための基礎資料を得ることを目的として今回初めて本調査を実施した。

## 2. 調査の概要

### 2-1. 調査内容

調査範囲：バルク貨物の以下の流動実態

- ①内陸（仕出地）から臨海地域の出荷施設までの輸送
- ②臨海地域の出荷施設から船舶までの輸送
- ③船舶輸送
- ④船舶から臨海地域の入荷施設までの輸送
- ⑤臨海地域の入荷施設から内陸（仕向地）までの輸送

調査期間：平成22年1月26日（火）～2月24日（水）の30日間

調査対象貨物：上記期間中に国内の港湾を出入港したバルク貨物船を利用したバルク貨物

（※「コンテナ貨物」及び「トラック・トレーラーに積載され RORO 船等により輸送される貨物」を除く全ての貨物。すなわち、バラ積みドライバルク、原油等の液体バルク、完成自動車等が対象。）

調査対象者：調査対象者は船社及び船舶代理店とし、調査対象者リストを作成した。ただし、明らかに調査対象外と想定される事業者（外航の場合：外航フェリー・外航 RORO 船・外航客船等、内航の場合：曳舟・タグ・工船用船舶等）は除外した。

### 2-2. 調査方法

調査は、事前調査、本調査、2次調査の三段階で実施した。

事前調査は対象企業が調査対象者として該当するか否か、或いは、回答の方法、回答数等を把握するために実施した。この事前調査の結果に基づき、該当する対象者に対して本調査を実施した。本調査は、調査内容の中心実態を把握する者である船社を対象とし、対象の船社には、調査票を記入、回収した上で、未記入部分については、誰に追加調査をするべきかを併せて尋ねた。未記入部分を補完するための追加調査（2次調査）は、船舶代理店（現地代理店）等を対象として実施した。

### 2-3. 回収結果

本調査の回答結果は、以下の通りである。

調査票の回収率は、全体で41%、外航30%、内航58%となった。

表-2.1 本調査の回収結果

対象	対象社数 (A)	回答数 (B)	回収率 (%) (B/A)
外航	249	75	30%
内航	180	104	58%
計	439	179	41%

本調査の結果、内陸流動を担当する企業として添付された運送会社や荷主等のリスト先へ行った2次調査の回答結果は、以下の通りである。調査依頼数に対する回収率は55%となった。

表-2.2 2次調査の回収結果

対象	対象社数	調査依頼数 (A)	回答数 (B)	回収率 (%) (B/A)
外航	178	91	50	55%

※対象社数は、本調査によるリスト記載の社が母数

## 3. 調査結果

### 3-1. 取扱貨物量

取扱貨物量は、輸出3,366千トン(6%)、輸入35,960千トン(68%)、外貿合計39,326千トン(75%)、内貿13,409千トン(25%)、総計52,735千トンであった。

表-3.1.1 外貿内貿別貨物量

		貨物量 (千トン)	構成比(%)
外貿	輸出	3,366	6%
	輸入	35,960	68%
内貿		13,409	25%
計		52,735	100%

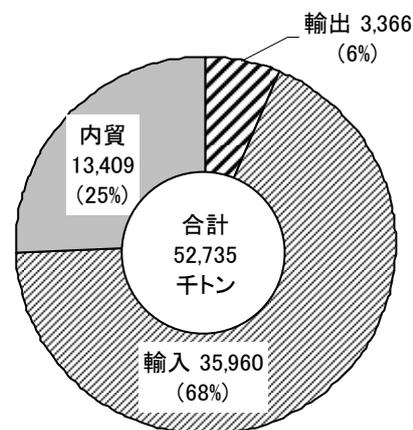


図-3.1.1 外貿内貿別貨物量

(1) 品目別貨物量

輸出は、1位が完成自動車 48%、2位が鋼材 16%、3位が石油製品 7%であり、上位3品目で71%であった。

輸入は、1位が原油 36%、2位が石炭 24%、3位が鉄鉱石 22%であり、上位3品目で82%であった。

内貿は、1位が石油製品 23%、2位が原油 17%、3位がセメント 16%であり、上位3品目で56%であった。

表-3.1.2 輸出：品目別貨物量（上位10品目）

輸出		(単位:千トン)		
順位	大分類名	品目名	貨物量	割合
1	金属機械工業品	完成自動車	1,601	48%
2	鉱産品	鋼材	540	16%
3	化学工業品	石油製品	250	7%
4	特殊品	金属くず	192	6%
5	化学工業品	化学薬品	153	5%
6	鉱産品	石灰石	116	3%
7	化学工業品	セメント	105	3%
8	化学工業品	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	89	3%
9	鉱産品	原塩	69	2%
10	鉱産品	砂利・砂	68	2%

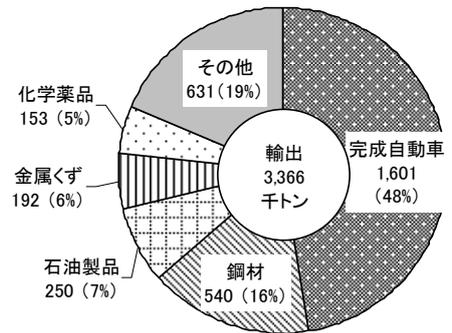


図-3.1.2 輸出：品目別貨物量

表-3.1.3 輸入：品目別貨物量（上位10品目）

輸入		(単位:千トン)		
順位	大分類名	品目名	貨物量	割合
1	鉱産品	原油	12,935	36%
2	鉱産品	石炭	8,702	24%
3	鉱産品	鉄鉱石	7,758	22%
4	化学工業品	LNG(液化天然ガス)	2,299	6%
5	林産品	木材チップ	1,077	3%
6	化学工業品	重油	732	2%
7	鉱産品	原塩	434	1%
8	農水産品	麦	265	1%
9	林産品	原木	228	1%
10	鉱産品	金属鉱	190	1%

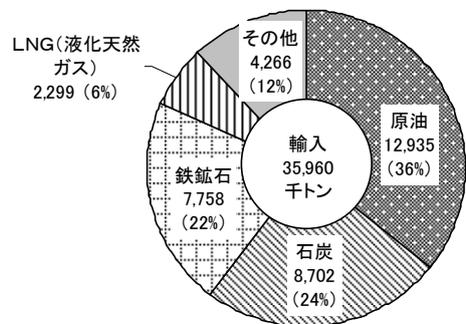


図-3.1.3 輸入：品目別貨物量

表-3.1.4 内貿：品目別貨物量（上位10品目）

内貿		(単位:千トン)		
順位	大分類名	品目名	貨物量	割合
1	化学工業品	石油製品	3,073	23%
2	鉱産品	原油	2,335	17%
3	化学工業品	セメント	2,148	16%
4	化学工業品	重油	1,123	8%
5	鉱産品	石灰石	1,078	8%
6	化学工業品	化学薬品	695	5%
7	金属機械工業品	完成自動車	336	3%
8	化学工業品	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	280	2%
9	鉱産品	砂利・砂	279	2%
10	鉱産品	非金属鉱物	275	2%

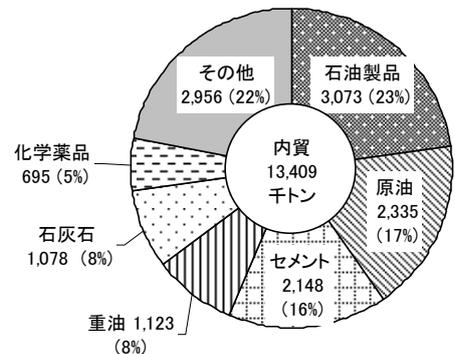


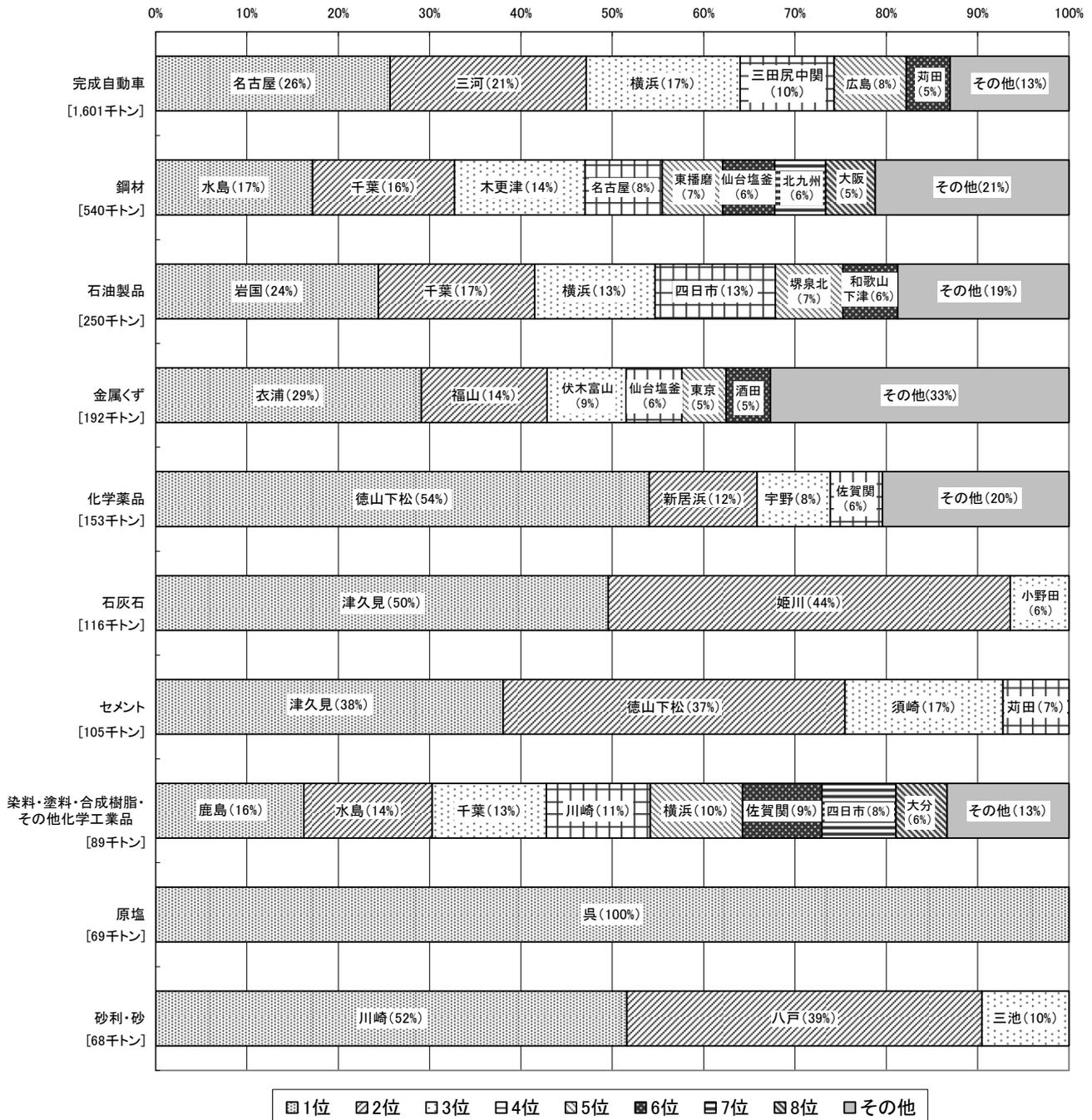
図-3.1.4 内貿：品目別貨物量

※5%未満はその他とする

(2) 港湾別貨物量

1) 輸出 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の完成自動車では、名古屋港が 26%、三河港が 21%、横浜港が 17%であった。2 位の鋼材では、水島港が 17%、千葉港が 16%、木更津港が 14%であった。3 位の石油製品では、岩国港が 24%、千葉港が 17%、横浜港、四日市港が 13%であった。

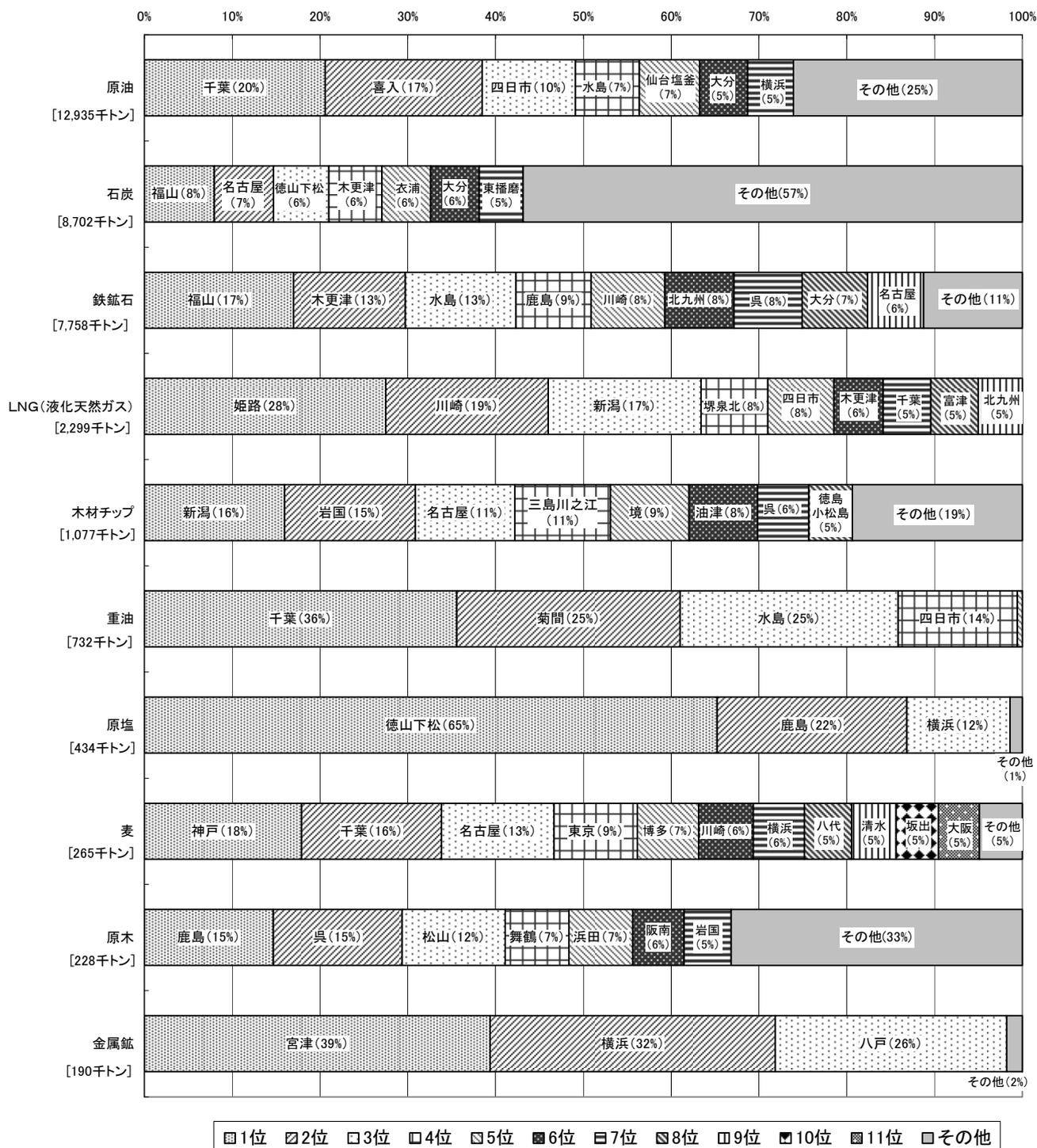


※5%未満はその他とする

図-3.1.5 輸出：品目別船積港別貨物量

## 2) 輸入 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の原油では、千葉港が 20%、喜入港が 17%、四日市港が 10%であった。2 位の石炭では、福山港が 8%、名古屋港が 7%、徳山下松港、木更津港、衣浦港、大分港が 6%であった。3 位の鉄鉱石では、福山港が 17%、木更津港、水島港が 13%であった。

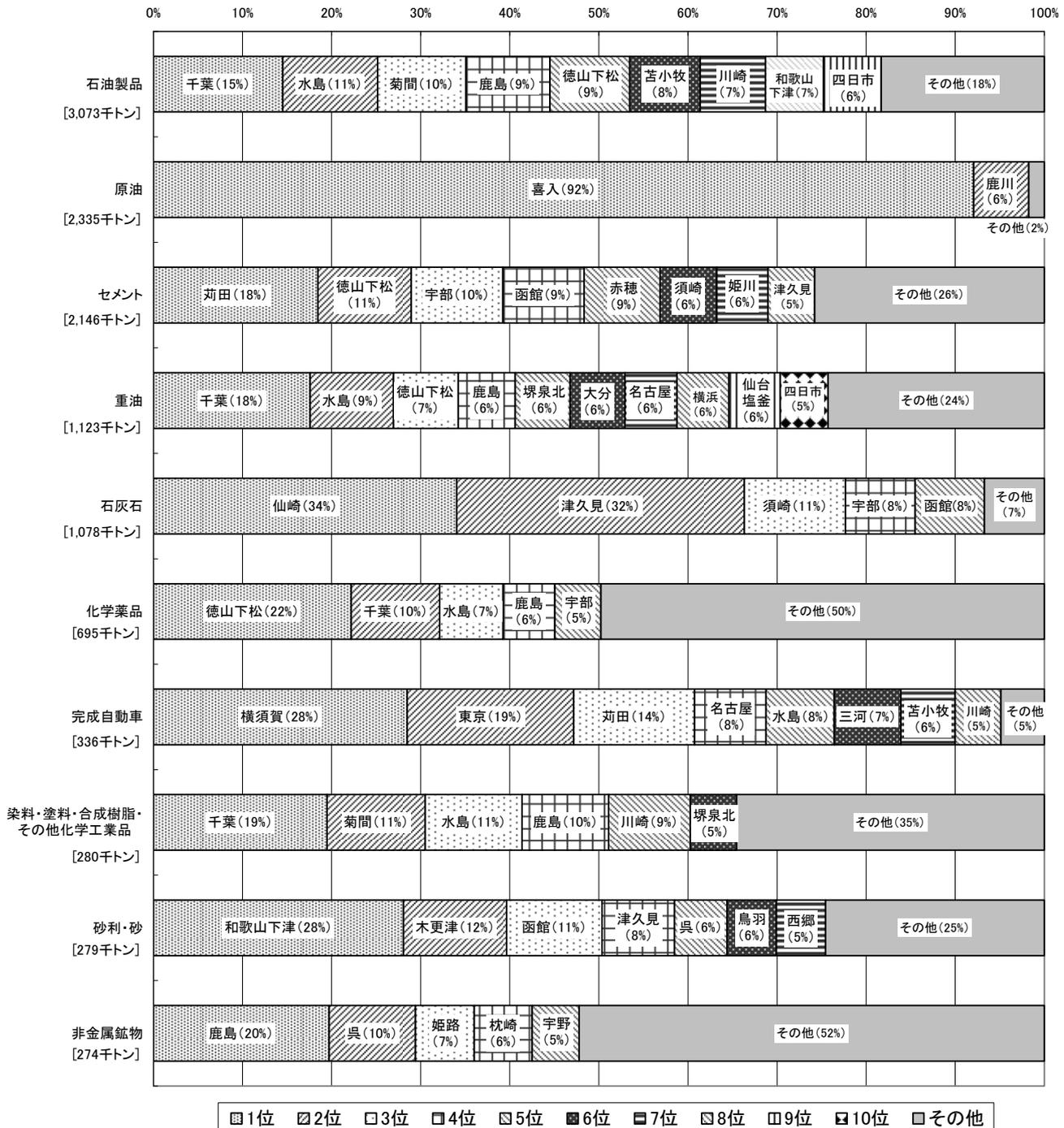


※5%未満はその他とする

図-3.1.6 輸入：品目別船卸港別貨物量

### 3) 移出 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の石油製品では、千葉港が 15%、水島港が 11%、菊間港が 10%であった。2 位の原油では、喜入港が 92%、鹿川港が 6%であった。3 位のセメントでは、荻田港が 18%、徳山下松港が 11%、宇部港が 10%であった。



※未記入分は除く  
※5%未満はその他とする

図-3.1.7 移出：品目別船積港別貨物量

#### 4) 移入 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の石油製品では、名古屋港が 9%、千葉港が 7%であった。2 位の原油では横浜港が 42%、堺泉北港が 17%、室蘭港が 15%であった。3 位のセメントでは、大阪港が 8%、東京港、千葉港が 7%であった。



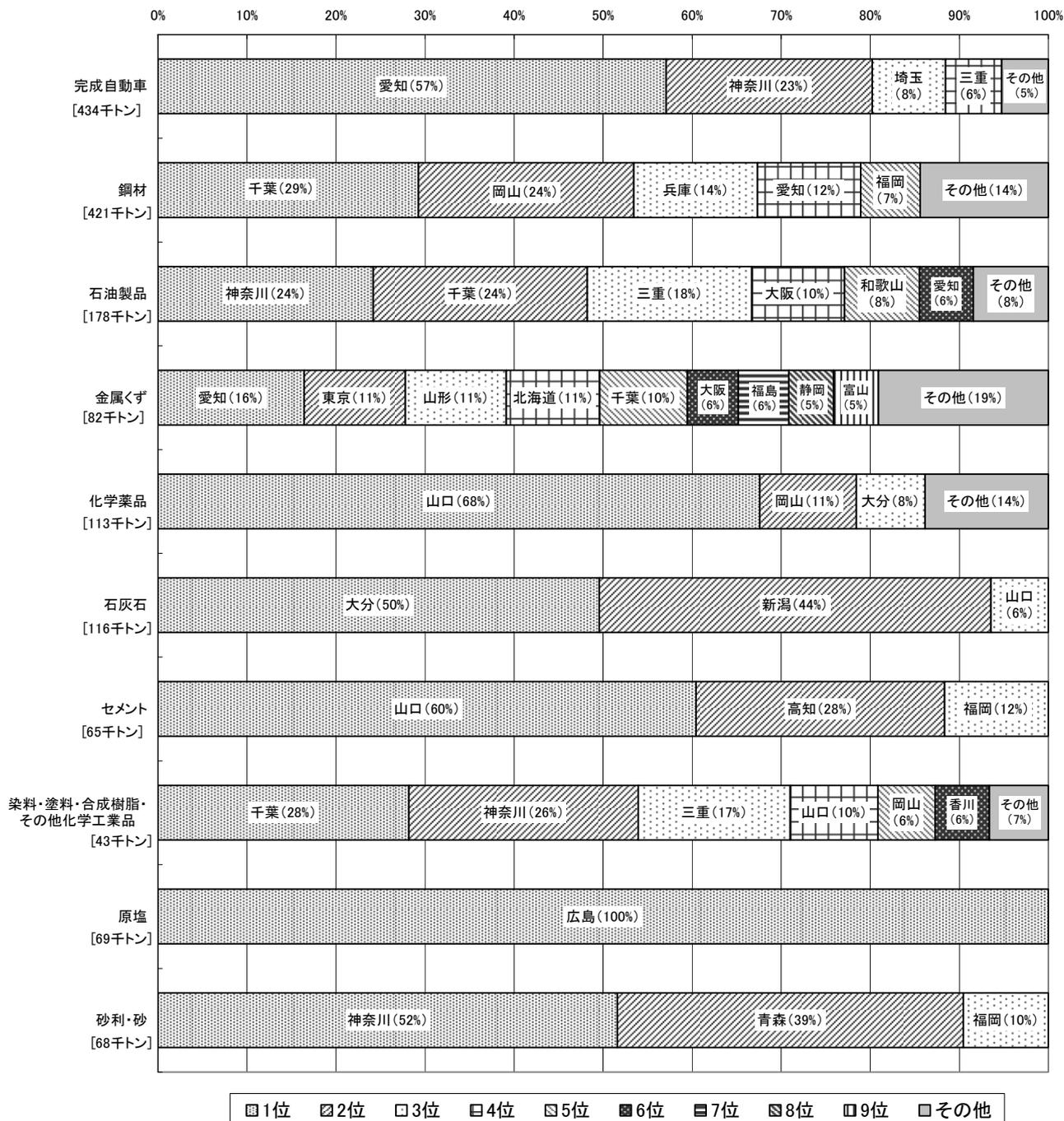
※未記入分は除く  
 ※5%未満はその他とする

図-3.1.8 移入：品目別船卸港別貨物量

(3) 品目別仕出(向)地別貨物量 (国内)

1) 輸出 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の完成自動車では、愛知県が 57%、神奈川県が 23%、埼玉県が 8%であった。2 位の鋼材では、千葉県が 29%、岡山県が 24%、兵庫県が 14%であった。3 位の石油製品では、神奈川県、千葉県が 24%、三重県が 18%であった。

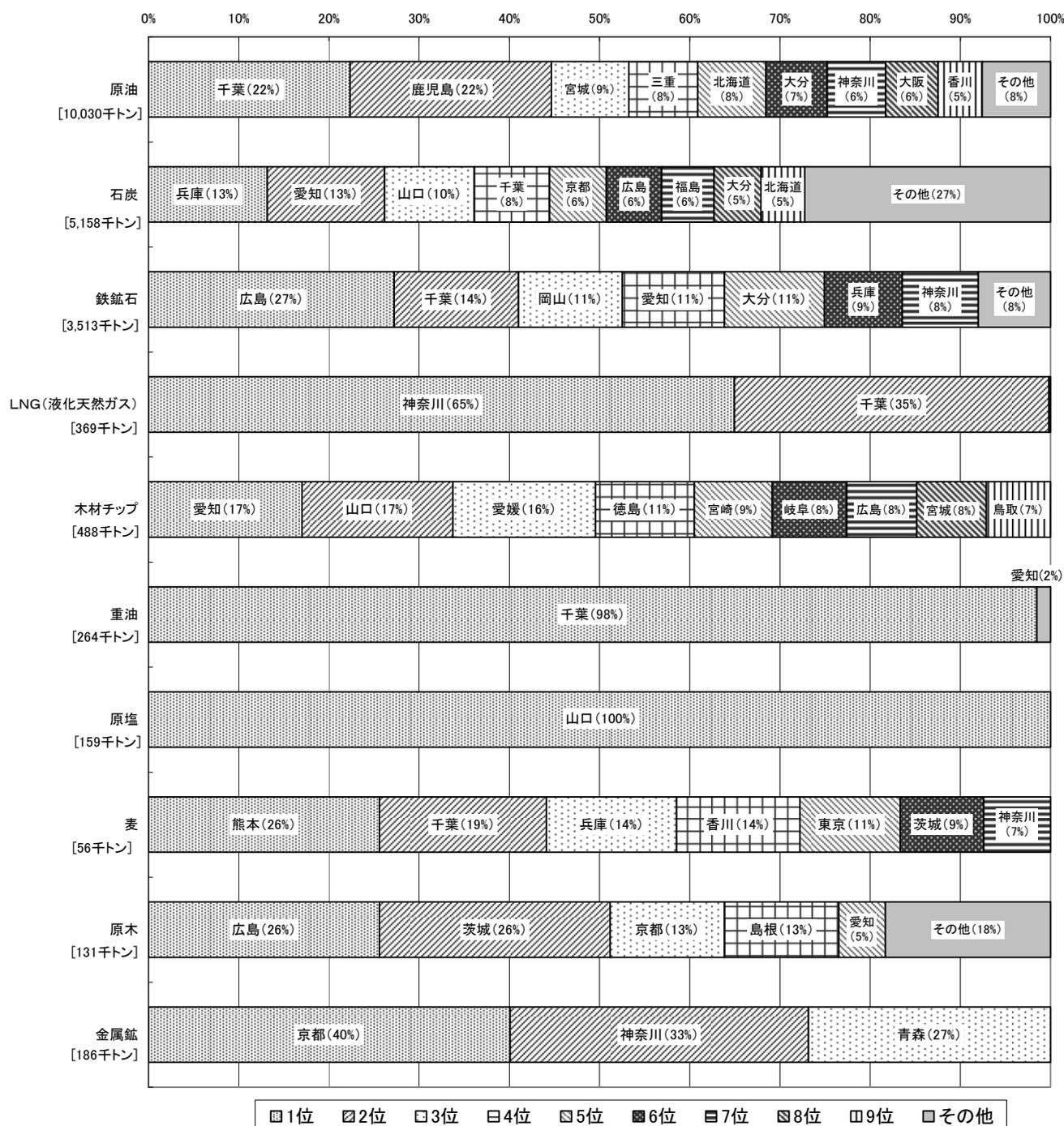


※未記入分は除く  
※5%未満はその他とする

図-3.1.9 輸出：品目別仕出地別貨物量

## 2) 輸入 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の原油では、千葉県が 22%、鹿児島県が 22%、宮城県が 9%であった。2 位の石炭では、兵庫県、愛知県が 13%、山口県が 10%であった。3 位の鉄鉱石では、広島県が 27%、千葉県が 14%、岡山県、愛知県、大分県が 11%であった。

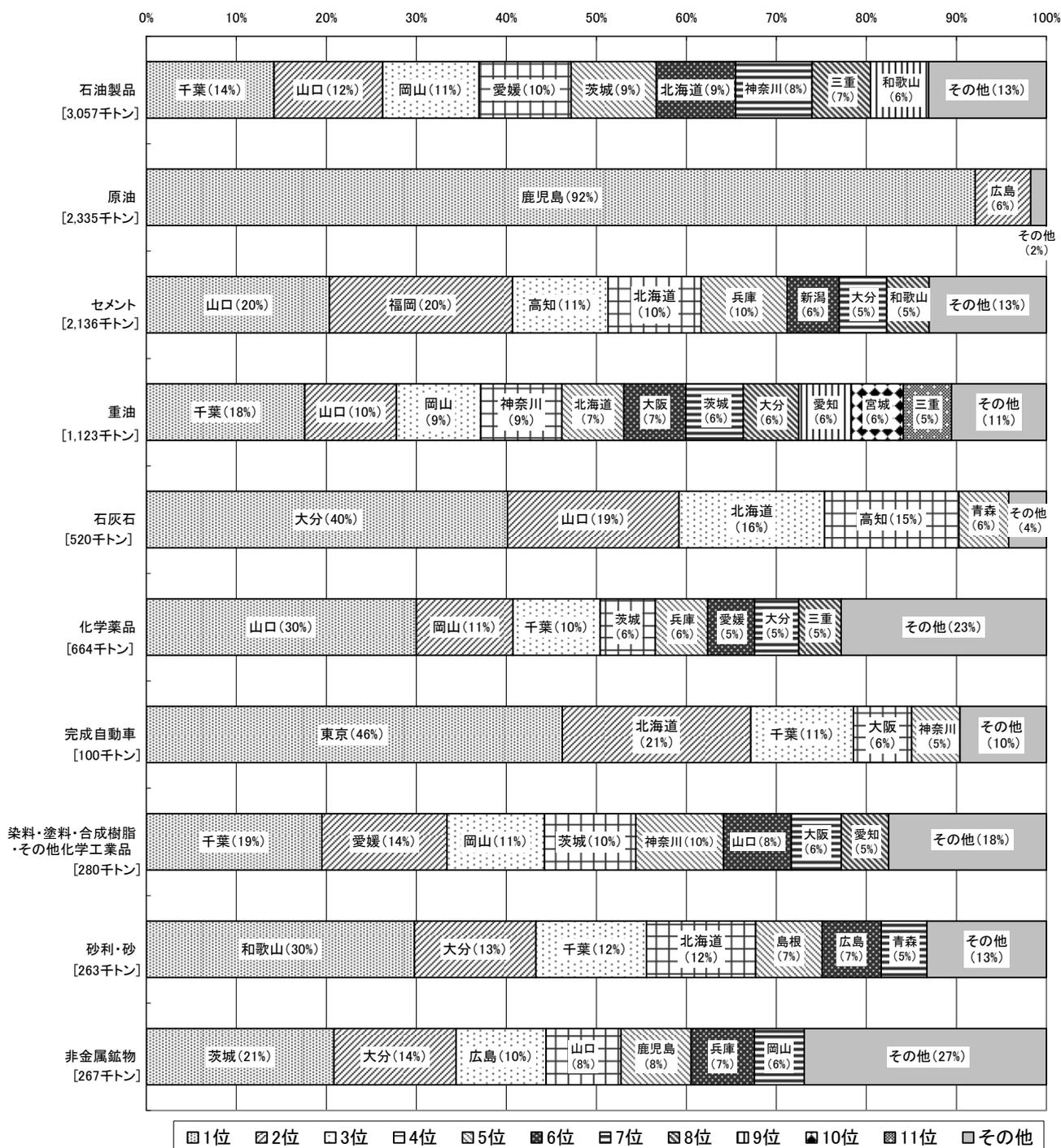


※未記入分は除く  
※5%未満はその他とする

図-3.1.10 輸入：品目別仕向地別貨物量

### 3) 移出 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の石油製品では、千葉県が 14%、山口県が 12%、岡山県が 11%であった。2 位の原油では、鹿児島県が 92%、広島県が 6%であった。3 位のセメントでは、山口県、福岡県が 20%、高知県が 11%であった。

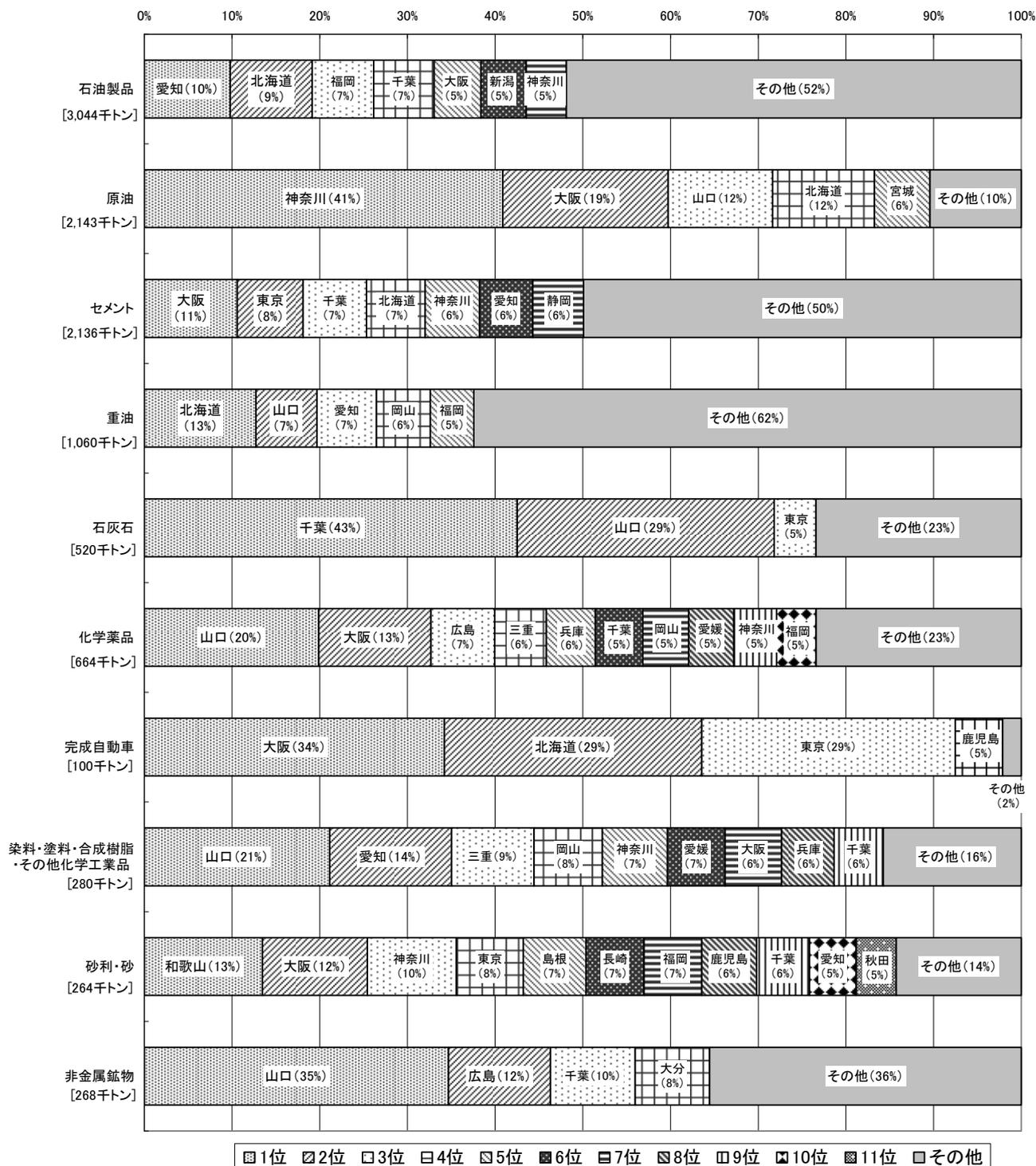


※未記入分は除く  
 ※5%未満はその他とする

図-3.1.11 移出：品目別仕出地別貨物量

#### 4) 移入 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の石油製品では、愛知県が 10%、北海道が 9%、福岡県、千葉県が 7%であった。2 位の原油では、神奈川県が 41%、大阪府が 19%、山口県、北海道が 12%であった。3 位のセメントでは、大阪府が 11%、東京都が 8%、千葉県、北海道が 7%であった。



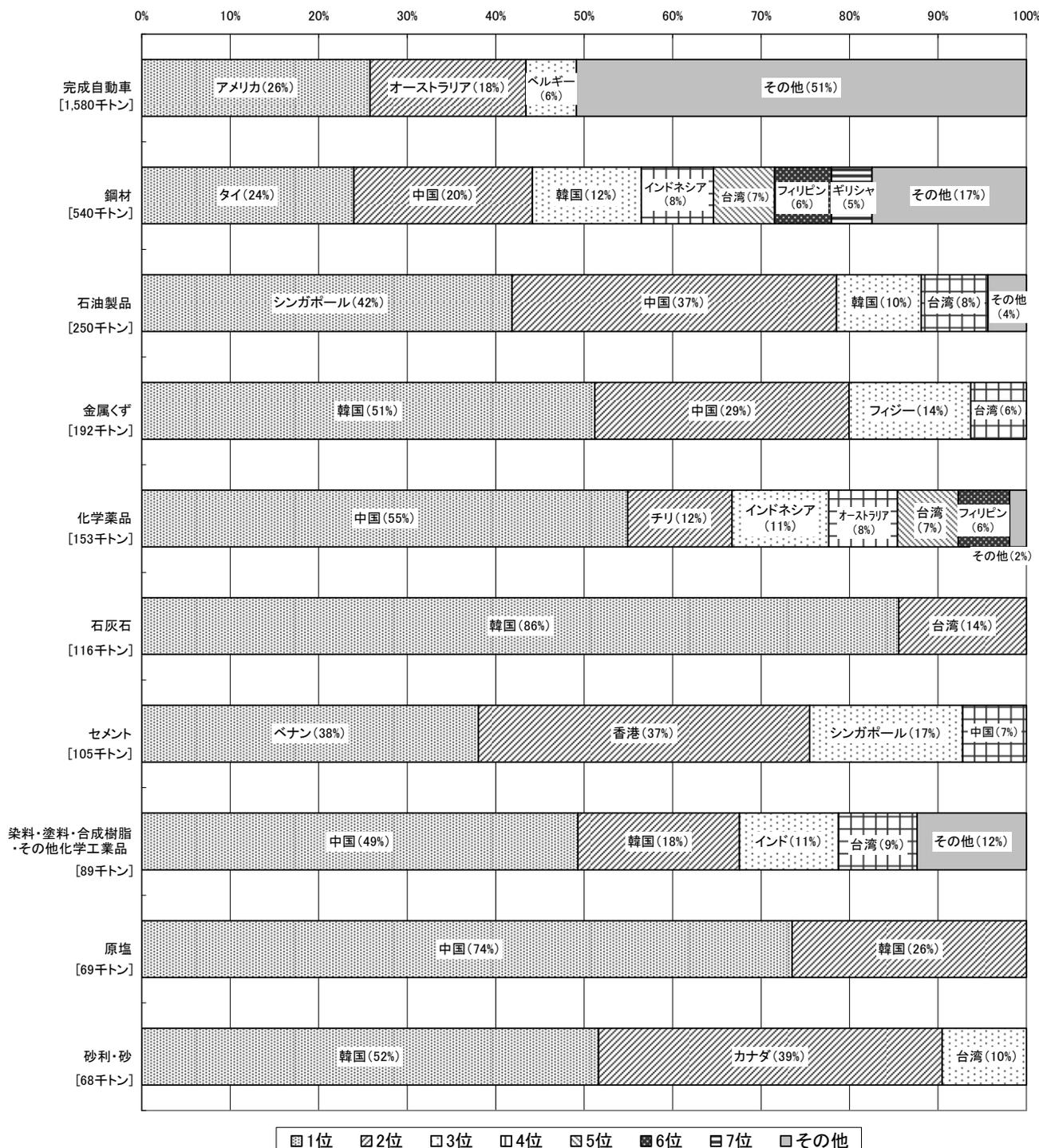
※未記入分は除く  
※5%未満はその他とする

図-3.1.12 移入：品目別仕向地別貨物量

(4) 品目別仕出(向)国別貨物量(海外)

1) 輸出(上位10品目)

取扱貨物量上位3品目を見ると、1位の完成自動車では、アメリカが26%、オーストラリアが18%、ベルギーが6%であった。2位の鋼材では、タイが24%、中国が20%、韓国が12%であった。3位の石油製品では、シンガポールが42%、中国が37%、韓国が10%であった。

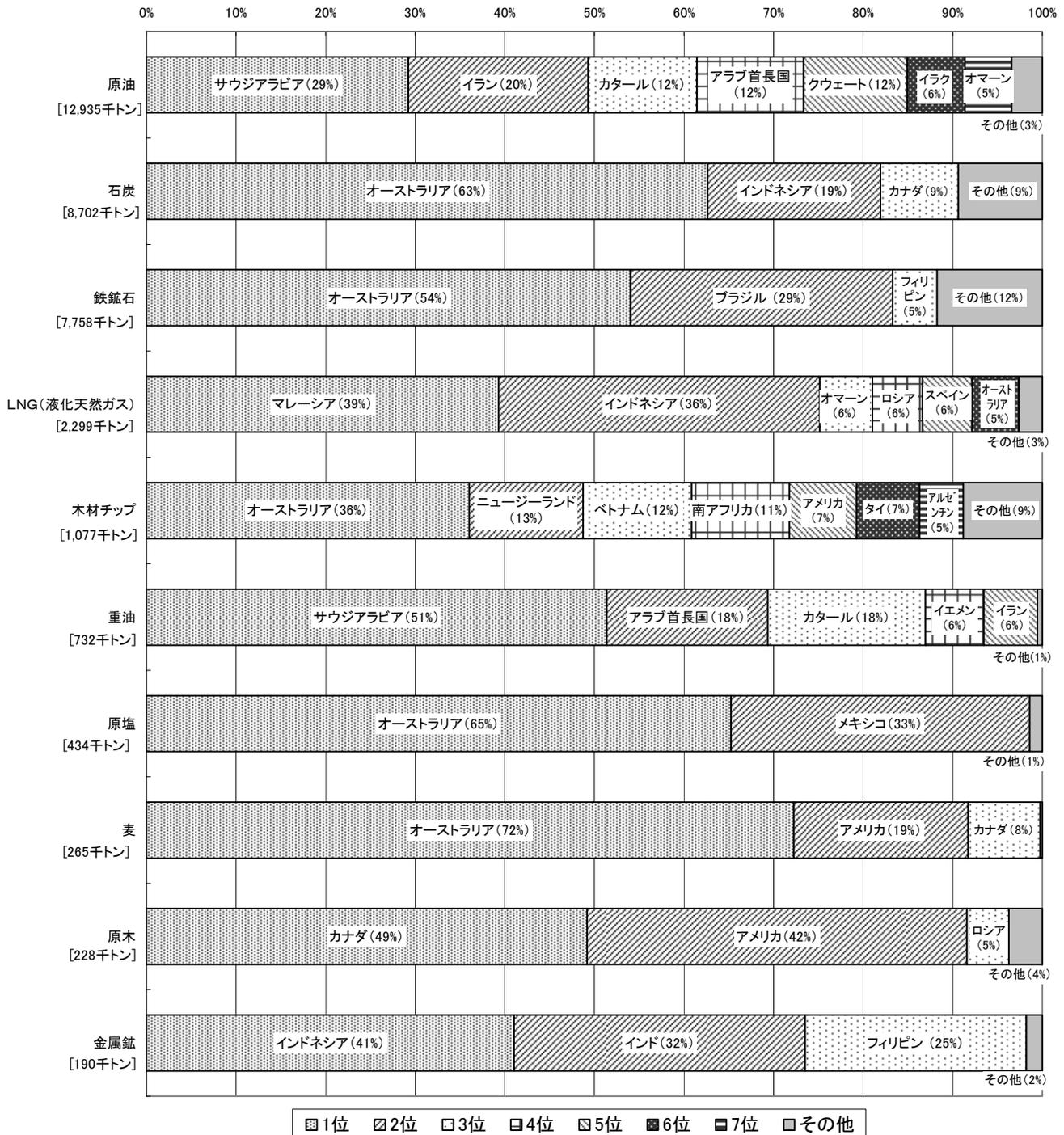


※未記入分は除く  
※5%未満はその他とする

図-3.1.13 輸出：品目別仕向国別貨物量

## 2) 輸入（上位 10 品目）

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の原油では、サウジアラビアが 29%、イランが 20%、カタール、アラブ首長国連邦、クウェートが 12%であった。2 位の石炭では、オーストラリアが 63%、インドネシアが 19%、カナダが 9%であった。3 位の鉄鉱石では、オーストラリアが 54%、ブラジルが 29%であった。



※5%未満はその他とする

図-3.1.14 輸入：品目別仕出国別貨物量

(5) 出(入)荷施設別貨物量

1) 輸出(上位10品目)

取扱貨物量上位3品目を見ると、1位の完成自動車では、モータープールが27%、野積場が1%であった。2位の鋼材では、倉庫が83%、その他が5%、野積場、係留施設が2%であった。3位の石油製品では、貯油槽・危険物置場が76%であった。

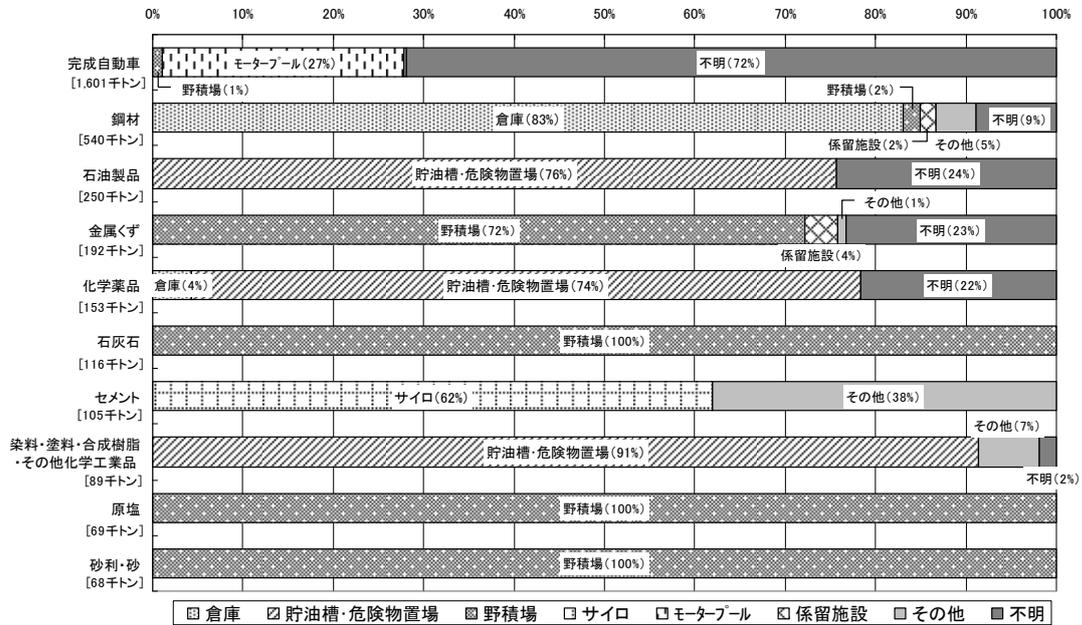


図-3.1.15 輸出：出荷施設別貨物量

2) 輸入(上位10品目)

取扱貨物量上位3品目を見ると、1位の原油では、貯油槽・危険物置場が100%であった。2位の石炭では、貯炭場が40%、その他が21%、野積場が13%であった。3位の鉄鉱石では、野積場が51%、その他が49%であった。

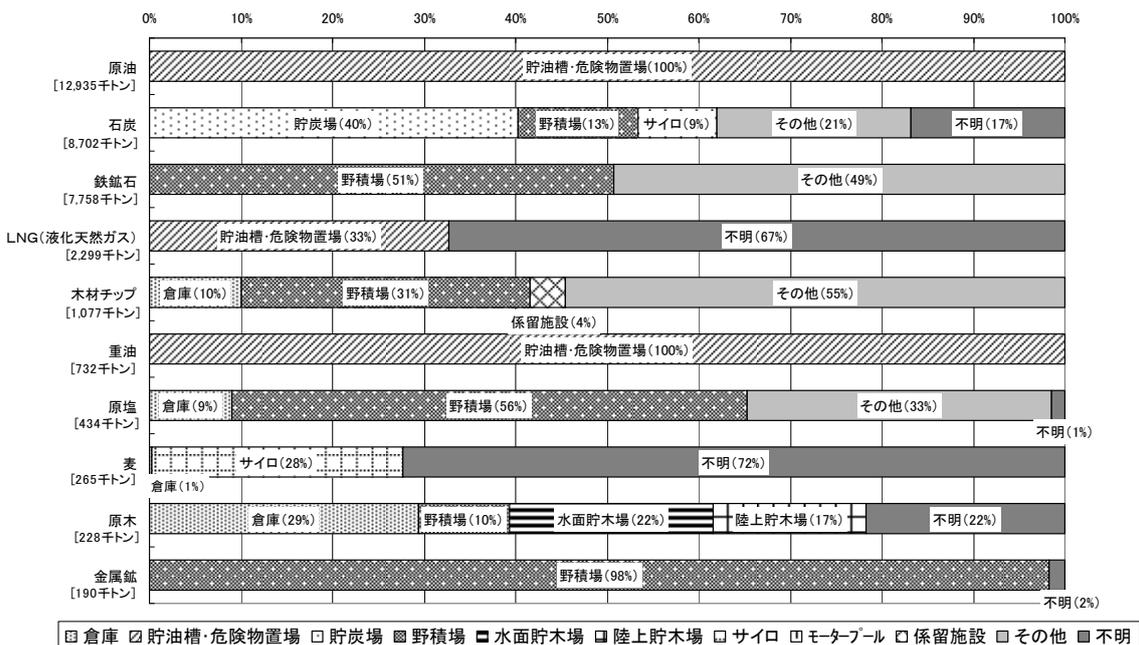


図-3.1.16 輸入：入荷施設別貨物量

### 3) 移出 (上位 10 品目)

取取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の石油製品では、貯油槽・危険物置場が 99%であった。2 位の原油では、貯油槽・危険物置場が 100%であった。3 位のセメントでは、サイロが 75%、係留施設が 23%、その他が 2%であった。

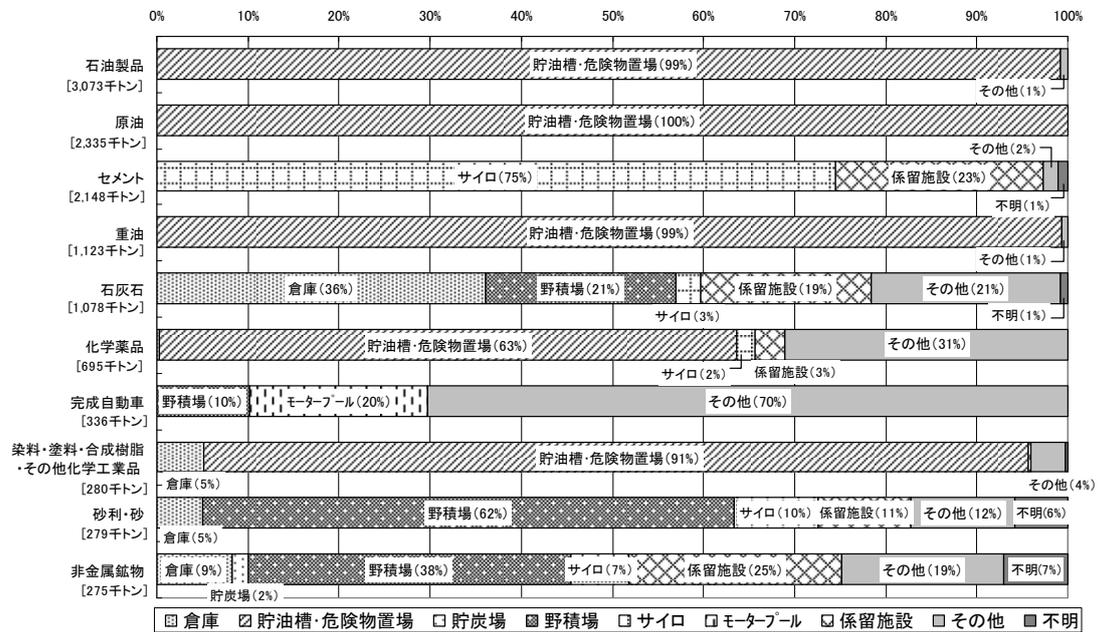


図-3.1.17 移出：出荷施設別貨物量

### 4) 移入 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の石油製品では、貯油槽・危険物置場が 99%であった。2 位の原油では、貯油槽・危険物置場が 100%であった。3 位のセメントでは、サイロが 77%、係留施設が 23%であった。

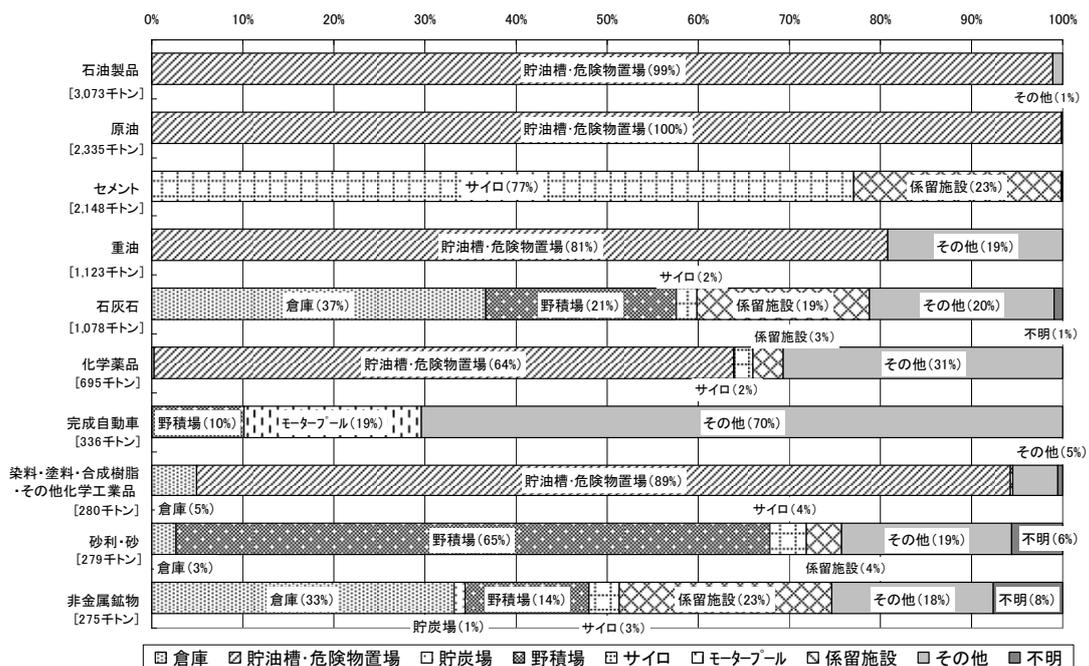


図-3.1.18 移入：入荷施設別貨物量

(6) 船舶～出(入)荷施設間輸送機関別貨物量

1) 輸出(上位10品目)

取扱貨物量上位3品目を見ると、1位の完成自動車では、その他が83%、自動車が17%であった。2位の鋼材では、自動車が76%、その他が23%であった。3位の石油製品では、パイプラインが100%であった。

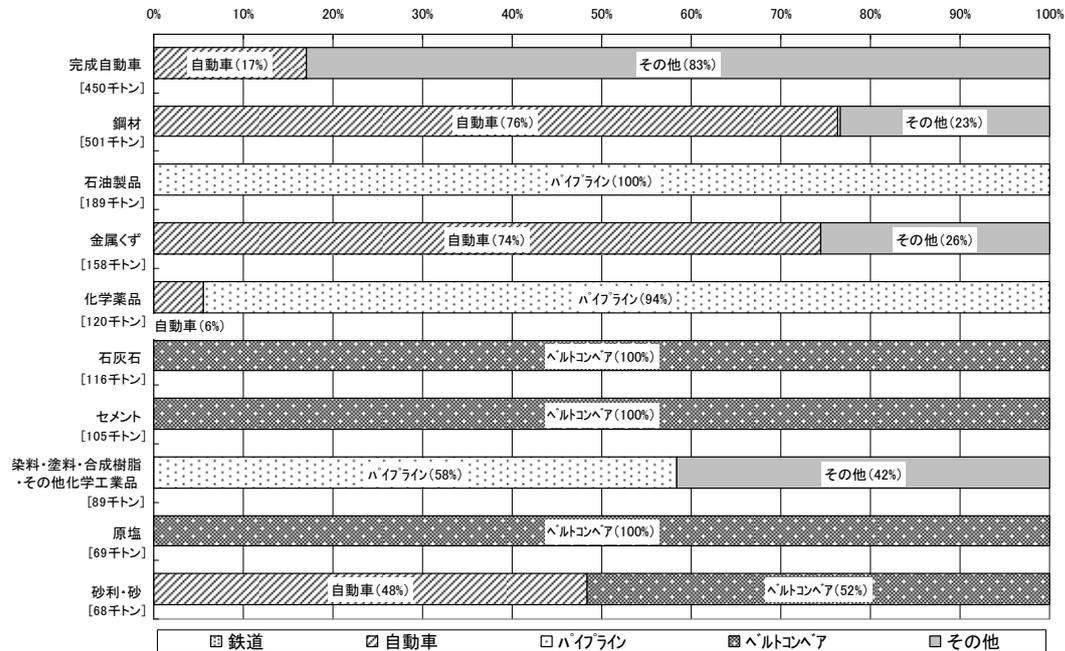


図-3.1.19 輸出：出荷施設～船舶間輸送機関別貨物量

※未記入分は除く

2) 輸入(上位10品目)

取扱貨物量上位3品目を見ると、1位の原油では、パイプラインが100%であった。2位の石炭では、ベルトコンベアが72%、その他が27%であった。3位の鉄鉱石では、ベルトコンベアが51%、その他が49%であった。

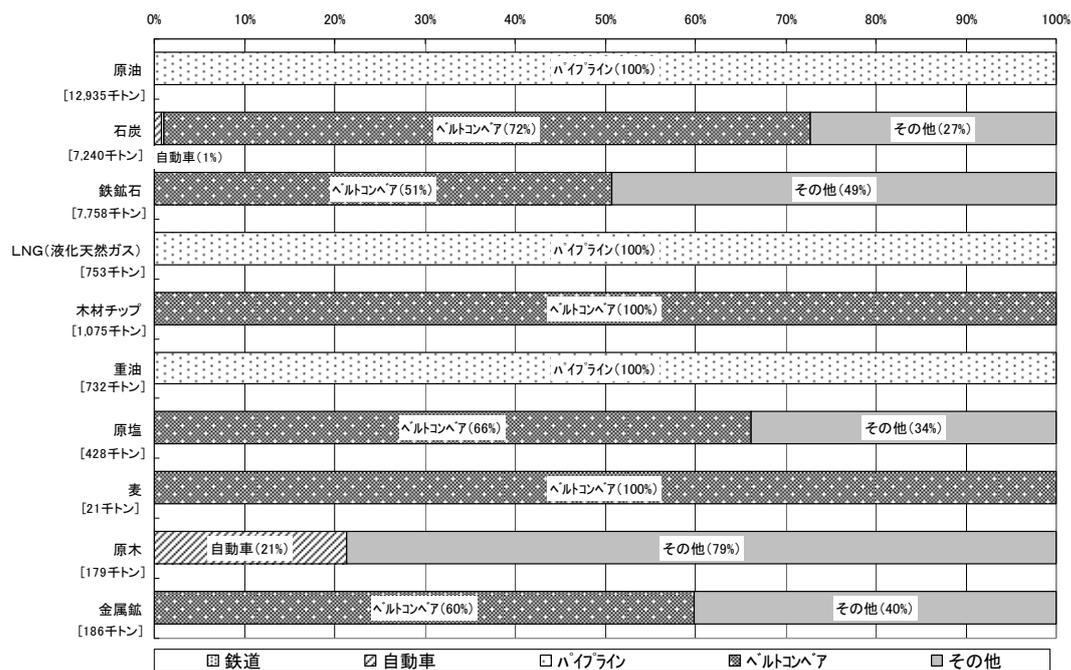
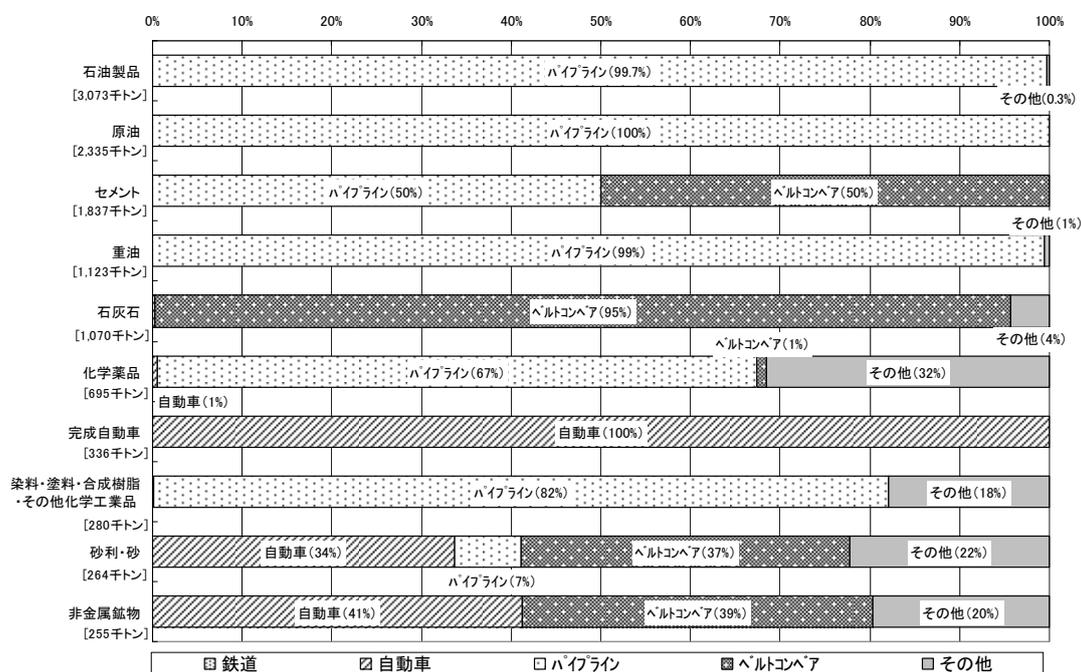


図-3.1.20 輸入：船舶～入荷施設間輸送機関別貨物量

※未記入分は除く

### 3) 移出 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の石油製品、2 位の原油では、パイプラインが 100%であった。3 位のセメントでは、パイプラインが 50%、ベルトコンベアが 50%であった。

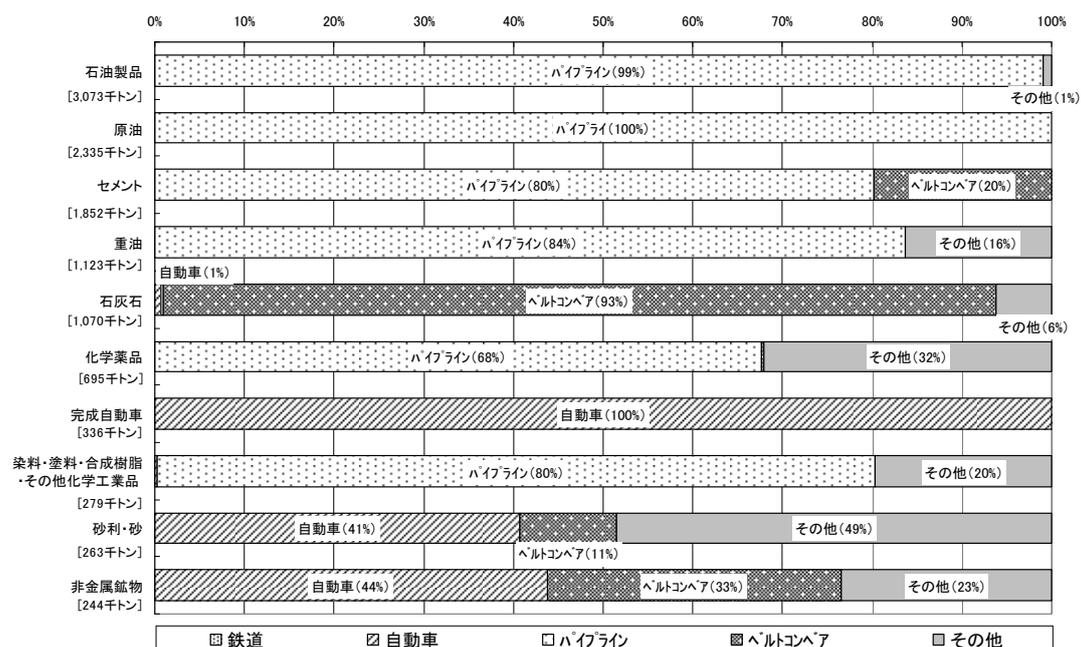


※未記入分は除く

図-3.1.21 移出：出荷施設～船舶間輸送機関別貨物量

### 4) 移入 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の石油製品では、パイプラインが 99%であった。2 位の原油では、パイプラインが 100%であった。3 位のセメントでは、パイプラインが 80%、ベルトコンベアが 20%であった。



※未記入分は除く

図-3.1.22 移入：船舶～入荷施設間輸送機関別貨物量

(7) 仕出(向)場所別貨物量

1) 輸出(上位10品目)

取扱貨物量上位3品目を見ると、1位の完成自動車では、工場が94%であった。2位の鋼材では、工場が71%、入出荷施設が9%であった。3位の石油製品では、工場が83%、入出荷施設が17%であった。

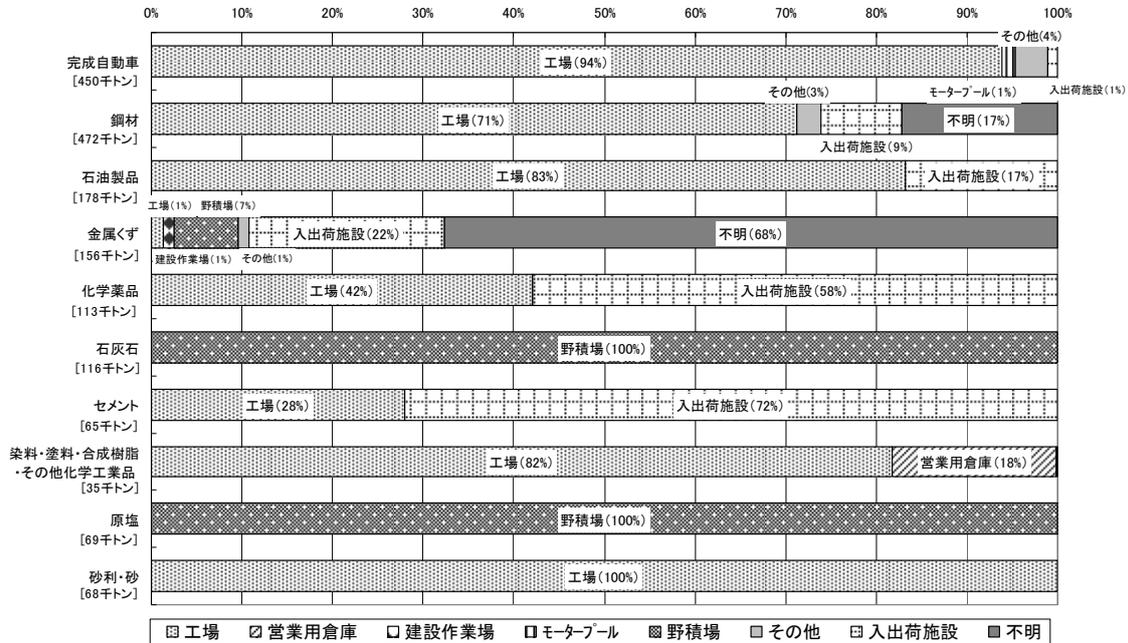


図-3.1.23 輸出：仕出場所別貨物量

※未記入分は除く

2) 輸入(上位10品目)

取扱貨物量上位3品目を見ると、1位の原油では、入出荷施設が79%、工場が9%であった。2位の石炭では、工場が44%、入出荷施設が9%、サイロが4%であった。3位の鉄鉱石では、工場が50%であった。

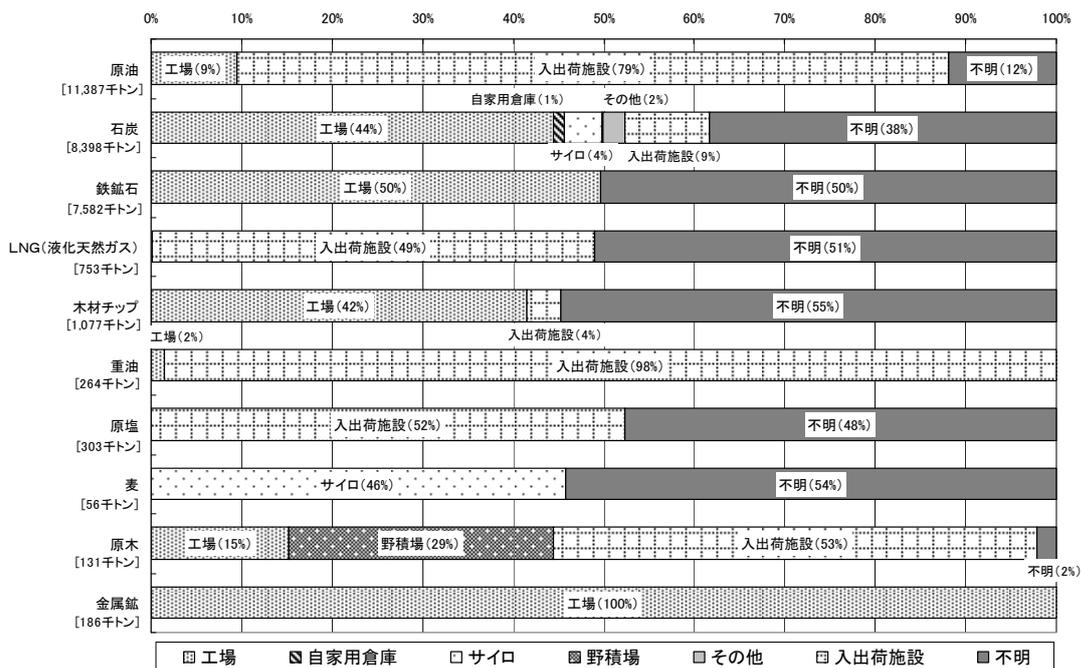


図-3.1.24 輸入：仕向場所別貨物量

※未記入分は除く

### 3) 移出 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の石油製品では、入出荷施設が 51%、工場が 48%であった。2 位の原油では、入出荷施設が 97%、工場が 3%であった。3 位のセメントでは、入出荷施設が 85%、工場が 13%であった。

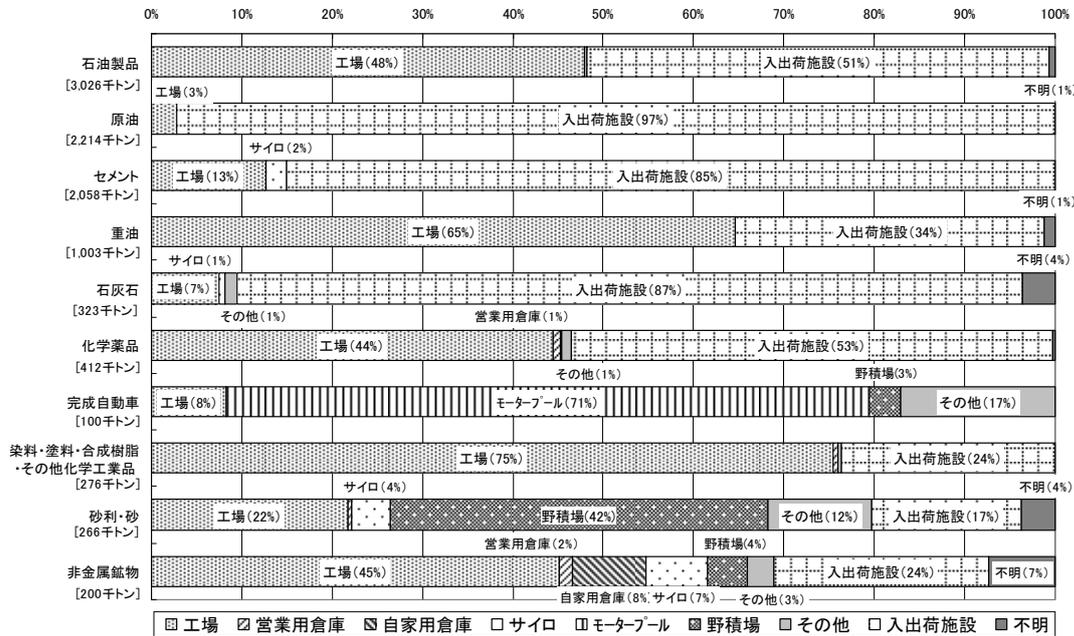


図-3.1.25 移出：仕出場所別貨物量

※未記入分は除く

### 4) 移入 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の石油製品では、入出荷施設が 59%、小売店舗が 19%、工場が 10%であった。2 位の原油では、工場が 100%であった。3 位のセメントでは、入出荷施設が 72%、工場が 8%、サイロが 7%であった。

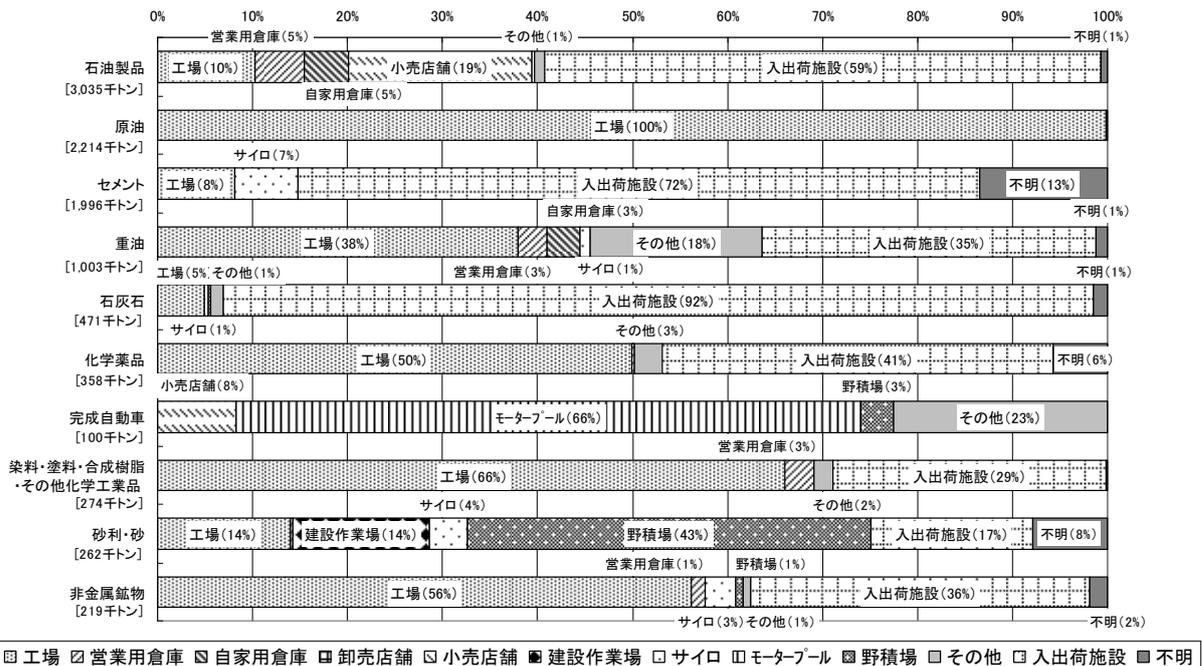


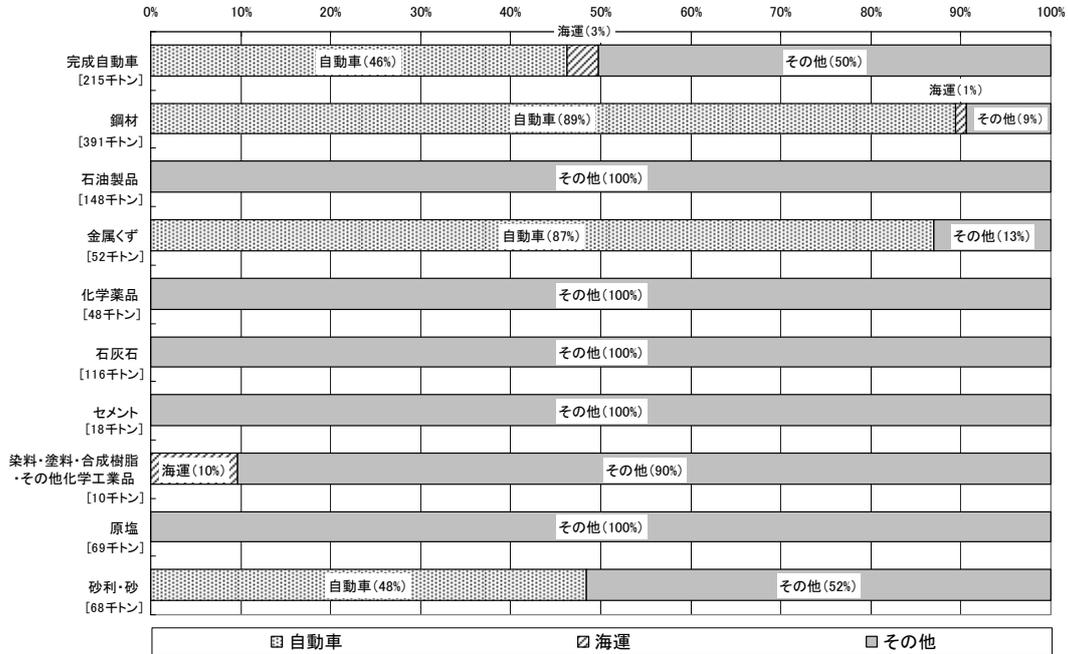
図-3.1.26 移入：仕向場所別貨物量

※未記入分は除く

(8) 出(入)荷施設～仕出(向)場所間輸送機関別貨物量

1) 輸出(上位10品目)

取扱貨物量上位3品目を見ると、1位の完成自動車では、その他が50%、自動車が46%、海運が3%であった。2位の鋼材では、自動車が89%、その他が9%、海運が1%であった。3位の石油製品では、その他が100%であった。

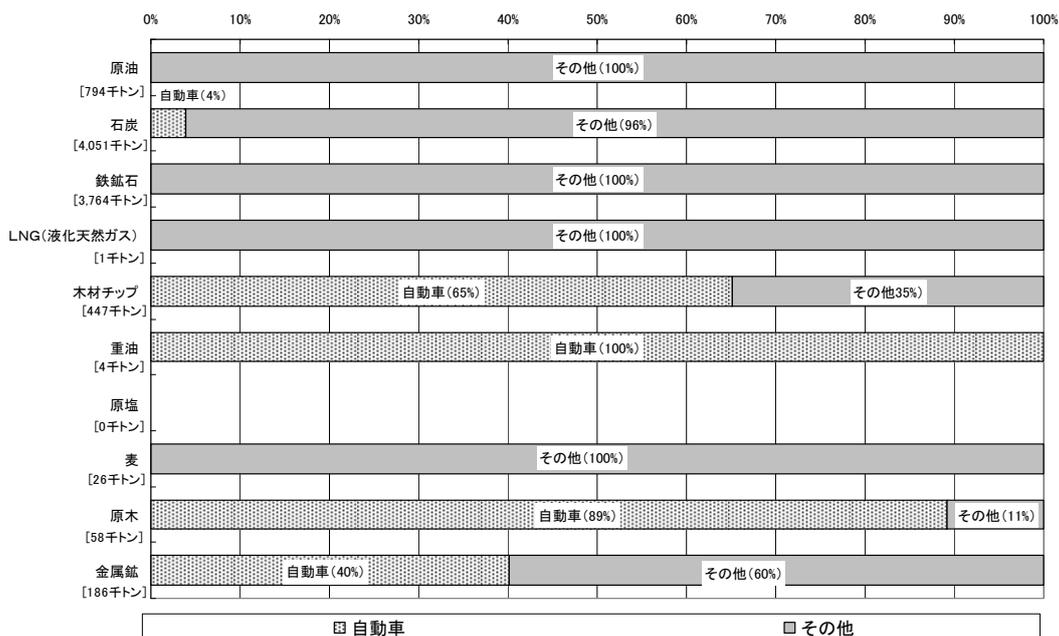


※未記入分は除く

図-3.1.27 輸出：仕出場所～出荷施設間輸送機関別貨物量

2) 輸入(上位10品目)

取扱貨物量上位3品目を見ると、1位の原油では、その他が100%であった。2位の石炭では、その他が96%、自動車が4%であった。3位の鉄鉱石では、その他が100%であった。

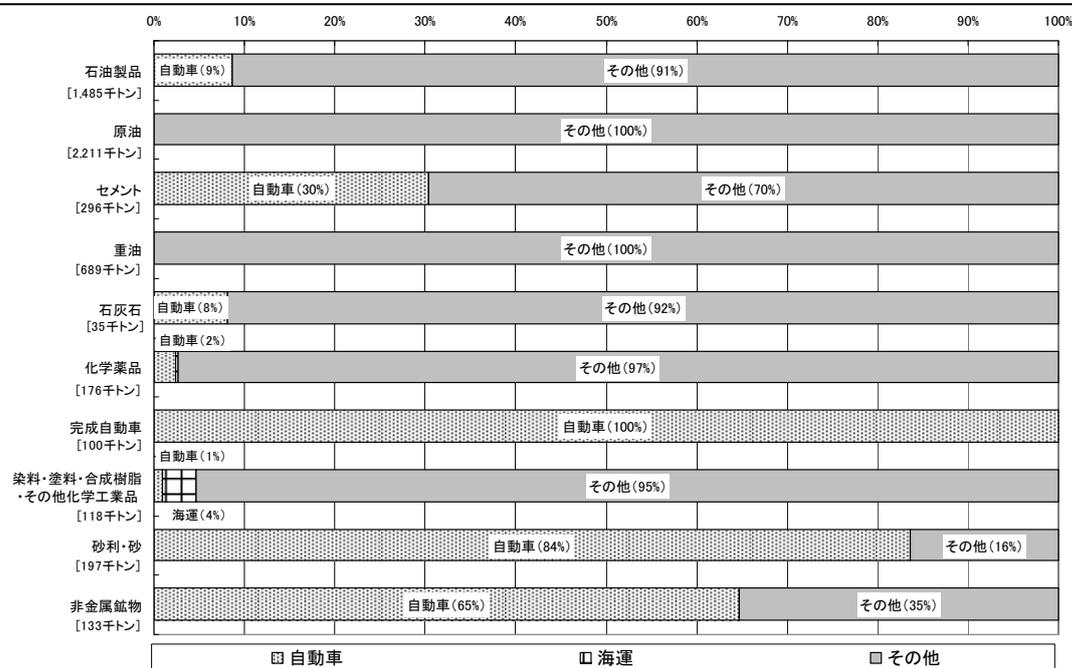


※原塩は回答なし  
※未記入分は除く

図-3.1.28 輸入：入荷施設～仕向場所間輸送機関別貨物量

### 3) 移出 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の石油製品では、その他が 91%、自動車が 9%であった。2 位の原油では、その他が 100%であった。3 位のセメントでは、その他が 70%、自動車が 30%であった。

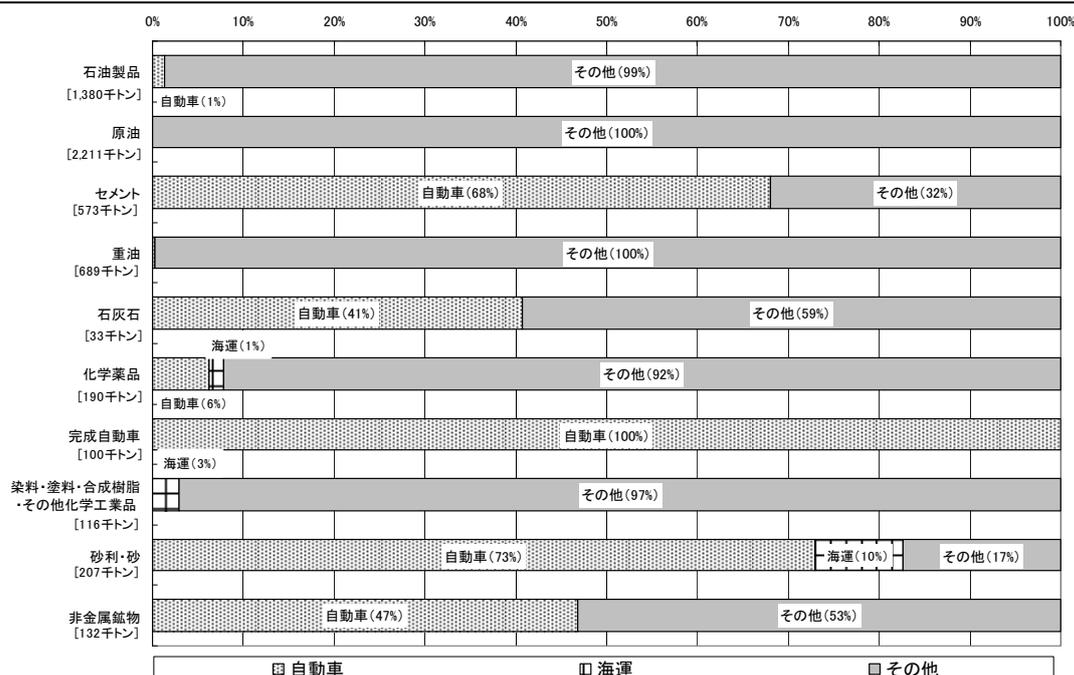


※未記入分は除く

図-3.1.29 移出：仕出場所～出荷施設間輸送機関別貨物量

### 4) 移入 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の石油製品では、その他が 99%、自動車が 1%であった。2 位の原油では、その他が 100%であった。3 位のセメントでは、自動車が 68%、その他が 32%であった。



※未記入分は除く

図-3.1.30 移入：入荷施設～仕向場所間輸送機関別貨物量

(9) 荷送(受)人業種別貨物量

1) 輸出(上位10品目)

取扱貨物量上位3品目を見ると、1位の完成自動車では、輸送用機械器具製造業が54%、運輸に付帯するサービス業が42%、自動車・自転車小売業が3%であった。2位の鋼材では、鉄鋼業が73%、金属製品製造業が13%であった。3位の石油製品では、石油製品石炭製品製造業が44%、化学工業が26%、建築材料・金属材料等卸売業が22%であった。

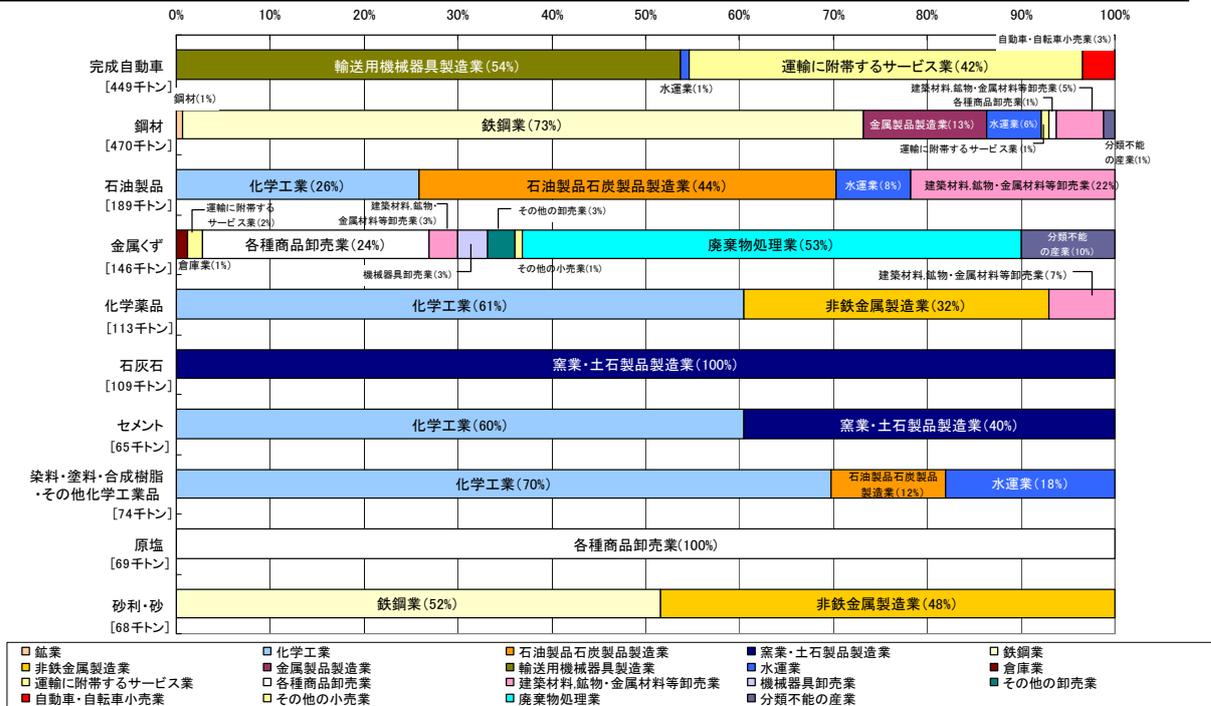


図-3.1.31 輸出：荷送人業種別貨物量

※未記入分は除く

2) 輸入(上位10品目)

取扱貨物量上位3品目を見ると、1位の原油では、石油製品石炭製品製造業が100%であった。2位の石炭では、鉄鋼業が44%、電気業が32%、石油製品石炭製品製造業が13%であった。3位の鉄鉱石では、鉄鋼業が100%であった。



図-3.1.32 輸入：荷受人業種別貨物量

※未記入分は除く

### 3) 移出 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の石油製品では、石油製品・石炭製品製造業が 64%、水運業が 21%、化学工業が 8%であった。2 位の原油では、石油製品・石炭製品製造業が 95%、電気業が 5%であった。3 位のセメントでは、窯業・土石製品製造業が 55%、その他の製造業が 26%、化学工業が 14%であった。



図-3.1.33 移出：荷送人業種別貨物量

※未記入分は除く

### 4) 移入 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の石油製品では、石油製品・石炭製品製造業が 34%、水運業が 23%、建築材料・金属材料等卸売業が 12%であった。2 位の原油では、石油製品・石炭製品製造業が 94%、電気業が 6%であった。3 位のセメントでは、窯業・土石製品製造業が 46%、その他の製造業が 27%、化学工業が 12%であった。



図-3.1.34 移入：荷受人業種別貨物量

※未記入分は除く  
※5%未満はその他とする

### 3-2. 船型、寄港地数等

#### (1) 船型別隻数

輸出では、1万トン以下が64%、そのうち3千トンから5千トン級が20%であった。輸入では、1万トン未満が18%、1万～3万トン級が22%、3万～9万トン級が36%、9万トン以上23%であった。内貿では、1万トン以下が89%、そのうち2千トン以下が73%であった。

表-3.2.1 利用船舶重量トン数別隻数

重量トン区分	輸出		輸入		内貿	
	隻数	割合	隻数	割合	隻数	割合
0～1,000トン	3	1%		0%	523	34%
1,001～2,000トン	35	10%	14	3%	607	39%
2,001～3,000トン	51	14%	15	3%	95	6%
3,001～5,000トン	72	20%	19	4%	86	6%
5,001～10,000トン	67	19%	36	8%	65	4%
10,001～12,000トン	21	6%	10	2%	5	0.3%
12,001～18,000トン	35	10%	14	3%	11	1%
18,001～30,000トン	31	9%	78	17%	5	0.3%
30,001～40,000トン	3	1%	20	4%		0%
40,001～55,000トン	4	1%	48	11%		0%
55,001～70,000トン		0%	31	7%		0%
70,001～90,000トン	1	0.3%	61	14%		0%
90,001～120,000トン		0%	13	3%	4	0.3%
120,001～150,000トン		0%	1	0%		0%
150,001～300,000トン		0%	46	10%		0%
300,000トン以上		0%	19	4%		0%
未記入	34	10%	25	6%	155	10%
合計	357	100%	450	100%	1,556	100%

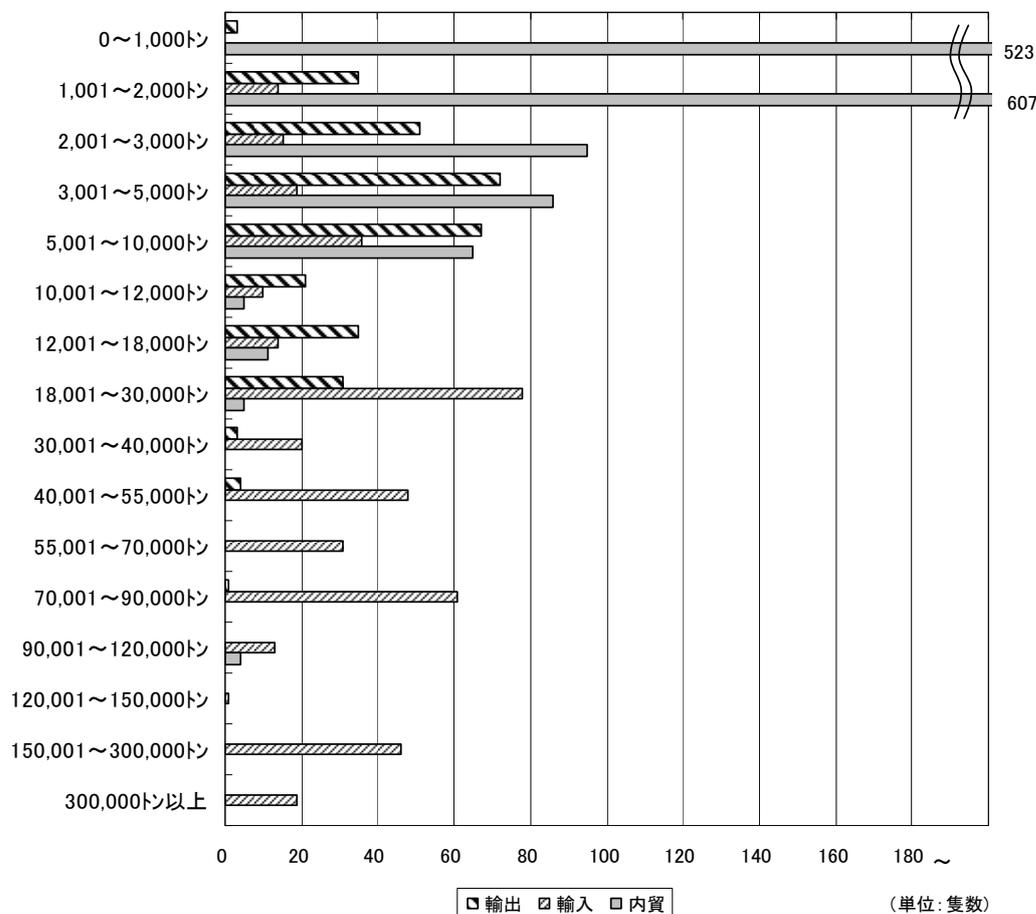
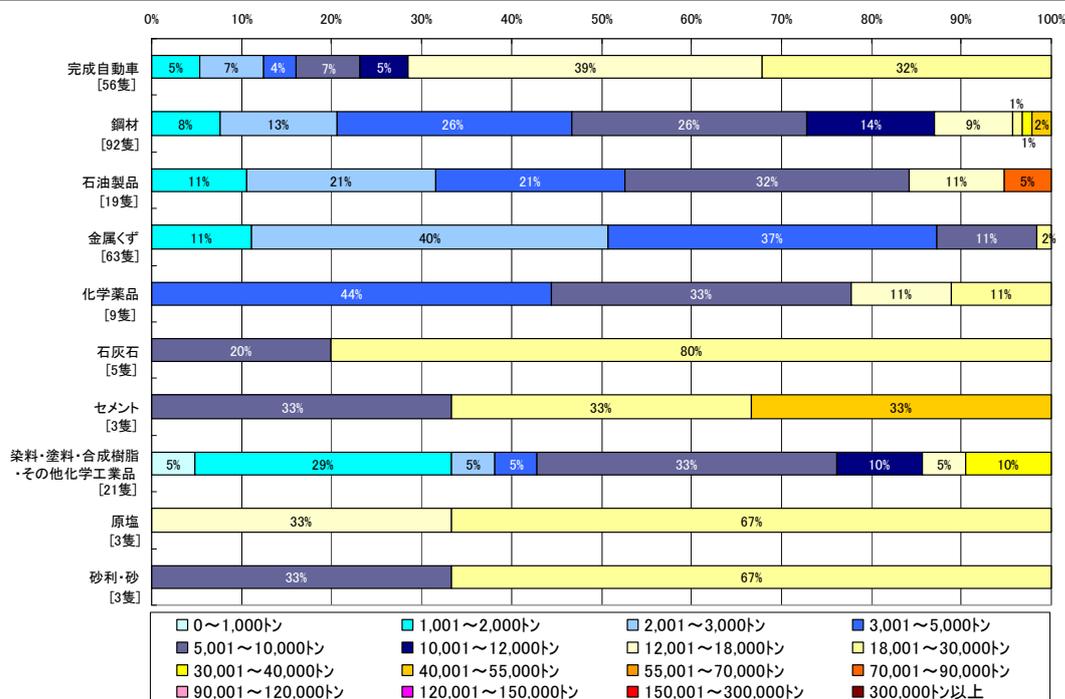


図-3.2.1 利用船舶重量トン数別隻数

## 1) 輸出 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の完成自動車では、1 万トン以上が 76%であった。2 位の鋼材では、3 千トン以上が 79%、内 1 万トン以上が 27%であった。3 位の石油製品では、3 千トン以上が 69%、内 1 万トン以上が 16%であった。

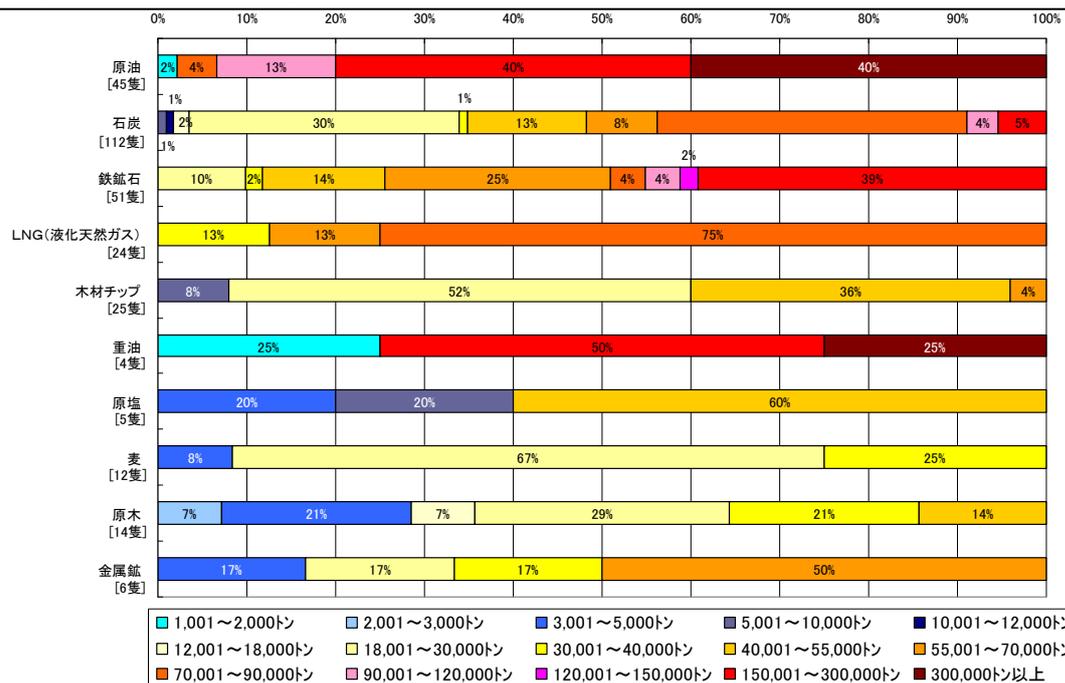


※未記入分は除く

図-3.2.2 輸出：品目別重量トン数別隻数

## 2) 輸入 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の原油では、7 万トン以上が 98%、そのうち 30 万トン以上が 40%であった。2 位の石炭では、7 万トン以上が 44%であった。3 位の鉄鉱石では、7 万トン以上が 49%であった。

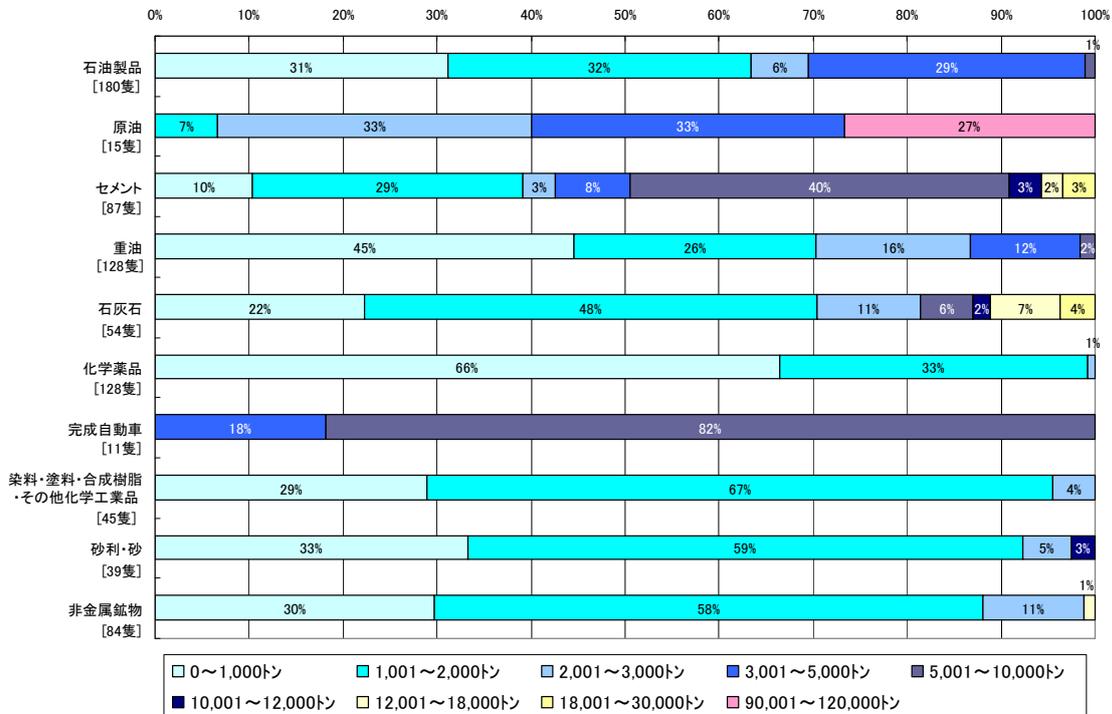


※未記入分は除く

図-3.2.3 輸入：品目別重量トン数別隻数

### 3) 内貿 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の石油製品では、5 千トン以下が 99%であった。2 位の原油では、2 千トン以上が 93%、そのうち 9 万トン以上が 27%であった。3 位のセメントでは、2 千トン以上が 61%であった。



※未記入分は除く

図-3.2.4 内貿：品目別重量トン数別隻数

### (2) 寄港地数

輸出入内貿いずれも、1 港積・1 港卸の寄港パターンが最も多かった。

表-3.2.2 船舶寄港状況

寄港パターン	輸出		輸入		内貿	
	航海数	割合	航海数	割合	航海数	割合
1港積・1港卸	377	76%	334	65%	7,259	92%
1港積・2港卸	28	6%	82	16%	334	4%
1港積・3港卸	6	1%	17	3%	33	0%
1港積・4港卸以上	7	1%	6	1%	2	0%
2港積・1港卸	17	3%	25	5%	115	1%
2港積・2港卸	13	3%	20	4%	110	1%
2港積・3港卸	5	1%	2	0%	24	0%
2港積・4港卸以上	10	2%	3	1%	3	0%
3港積・1港卸	1	0%	8	2%	4	0%
3港積・2港卸	3	1%	5	1%	5	0%
3港積・3港卸	6	1%	—	—	10	0%
3港積・4港卸以上	10	2%	—	—	2	0%
3港積・5港卸	—	—	3	1%	—	—
その他(4港積以上)	15	3%	6	1%	10	0%
合計	498	100%	511	100%	7,911	100%

## 1) 輸出 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の完成自動車では、1 港積・1 港卸が 23%、複数港積・複数港卸が 56%であった。2 位の鋼材では、1 港積・1 港卸が 61%、複数港積・複数港卸が 21%であった。3 位の石油製品では、1 港積・1 港卸が 75%、複数港積・複数港卸が 9%であった。

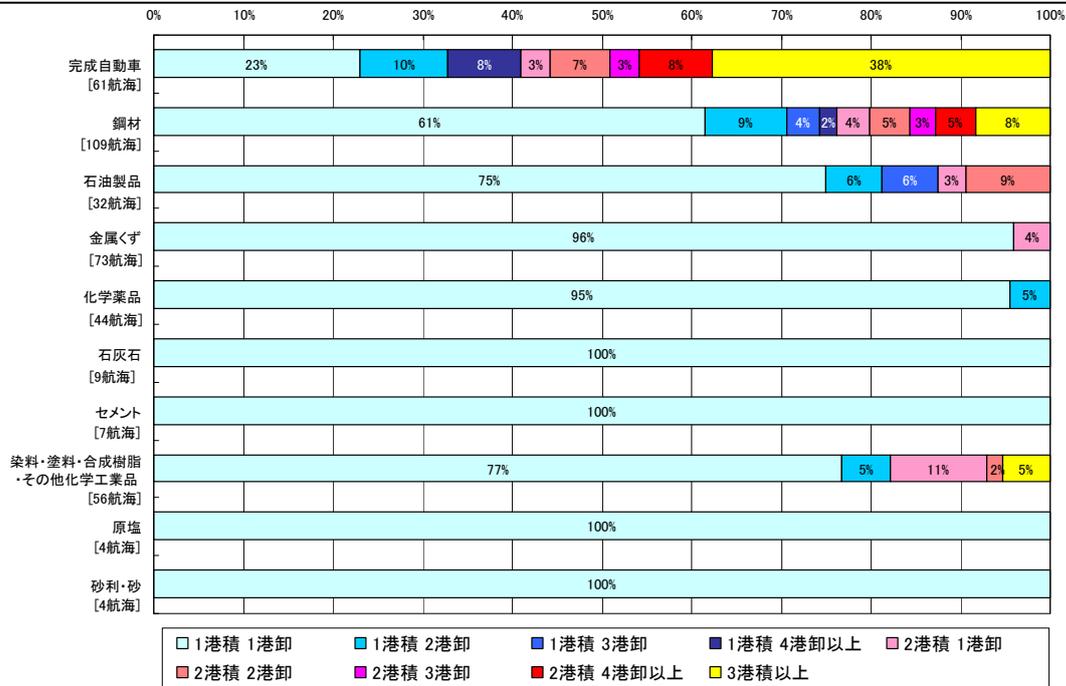


図-3.2.5 輸出：品目別寄港数

## 2) 輸入 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の原油では、1 港積・1 港卸が 12%、複数港積・複数港卸が 50%であった。2 位の石炭では、1 港積・1 港卸 80%であった。3 位の鉄鉱石では、1 港積 1 港卸が 63%、複数港積・複数港卸が 2%であった。

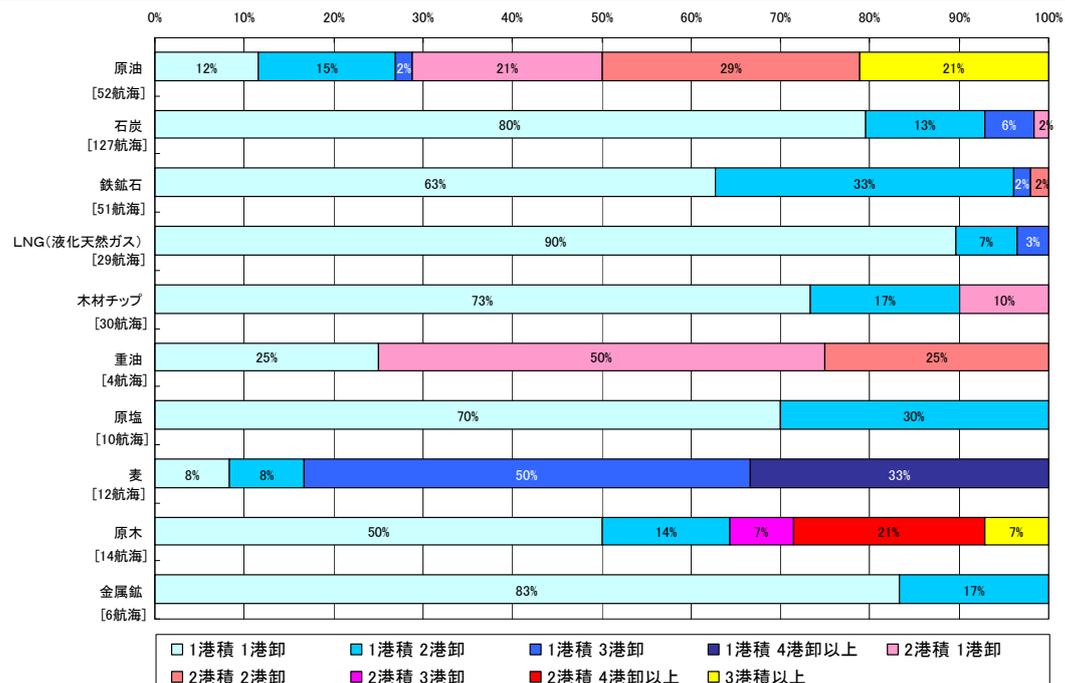


図-3.2.6 輸入：品目別寄港数

### 3) 内貿 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の石油製品では、1 港積・1 港卸が 94%、複数港積・複数港卸が 2%であった。2 位の原油では、1 港積・1 港卸が 98%であった。3 位のセメントでは、1 港積・1 港卸が 74%、複数港積・複数港卸が 5%であった。

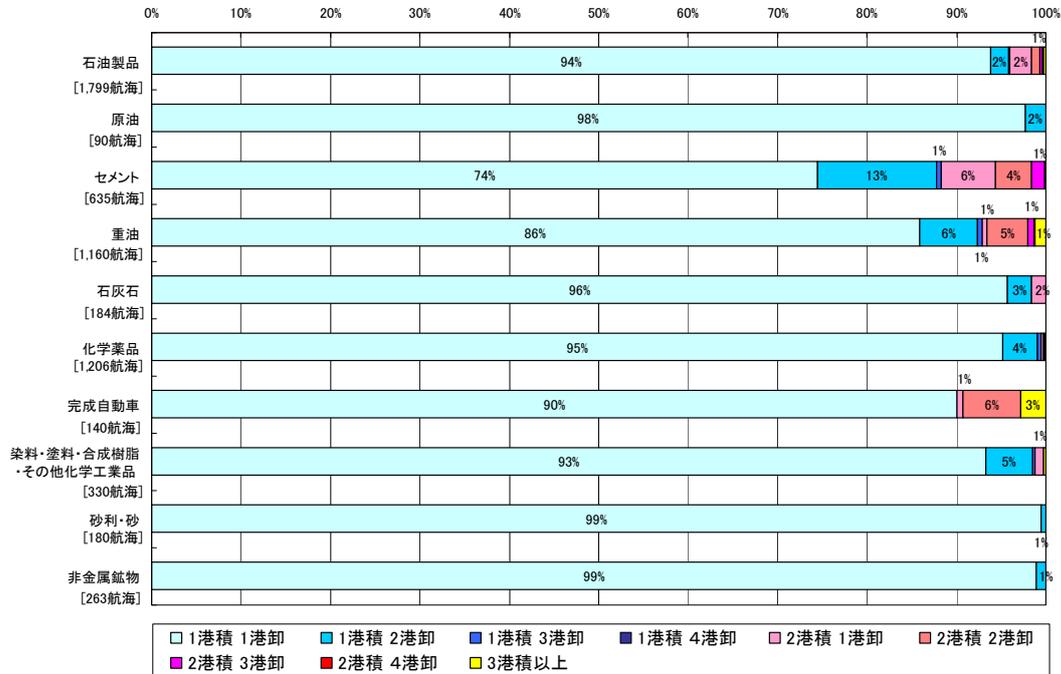


図-3.2.7 内貿：品目別寄港数

### 3-3. 貨物の背後圏

#### 1) 輸出 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の完成自動車では、港湾所在市町村内が 60%、港湾所在市町村外県内が 25%、県外が 16%であった。2 位の鋼材では、港湾所在市町村内が 95%、港湾所在市町村外県内が 5%、県外が 1%であった。3 位の石油製品では、港湾所在市町村内が 81%、港湾所在市町村外県内が 19%であった。

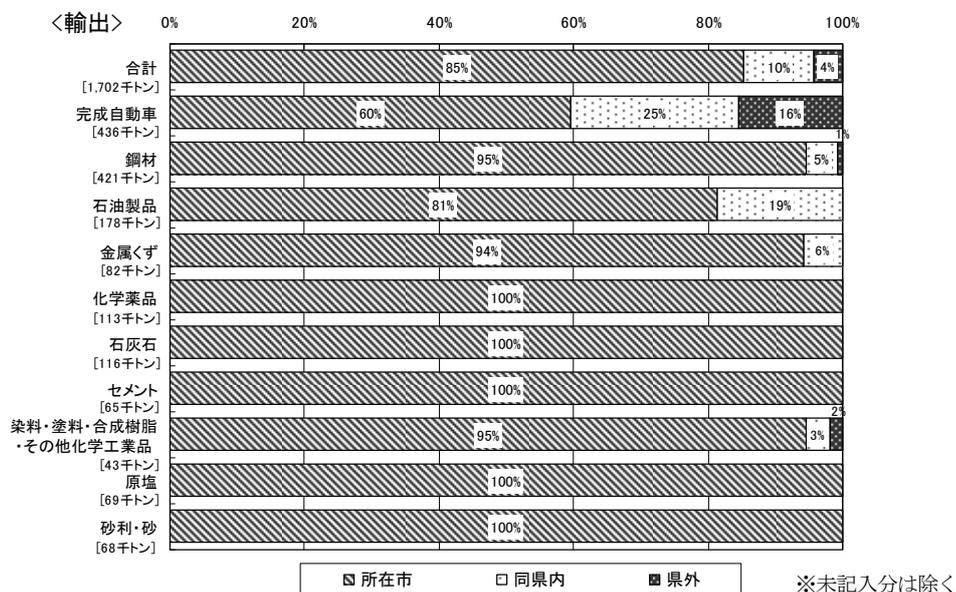


図-3.3.1 輸出：品目別背後圏構成比

## 2) 輸入 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の原油では、港湾所在市町村内が 99%、港湾所在市町村外県内が 1%であった。2 位の石炭では、港湾所在市町村内が 97%、港湾所在市町村外県内が 3%であった。3 位の鉄鉱石では、港湾所在市町村内が 96%、県外が 4%であった。

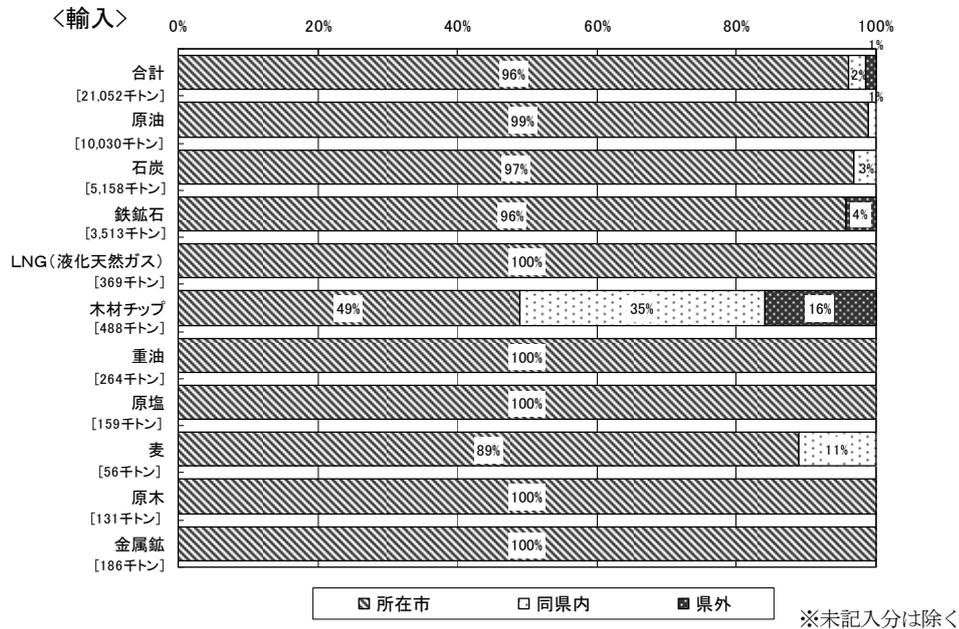


図-3.3.2 輸入：品目別背後圏構成比

## 3) 移出 (上位 10 品目)

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の石油製品では、港湾所在市町村内が 99%、港湾所在市町村外県内が 1%であった。2 位の原油では、港湾所在市町村内が 100%であった。3 位のセメントでは、港湾所在市町村内が 98%、港湾所在市町村外県内が 2%であった。

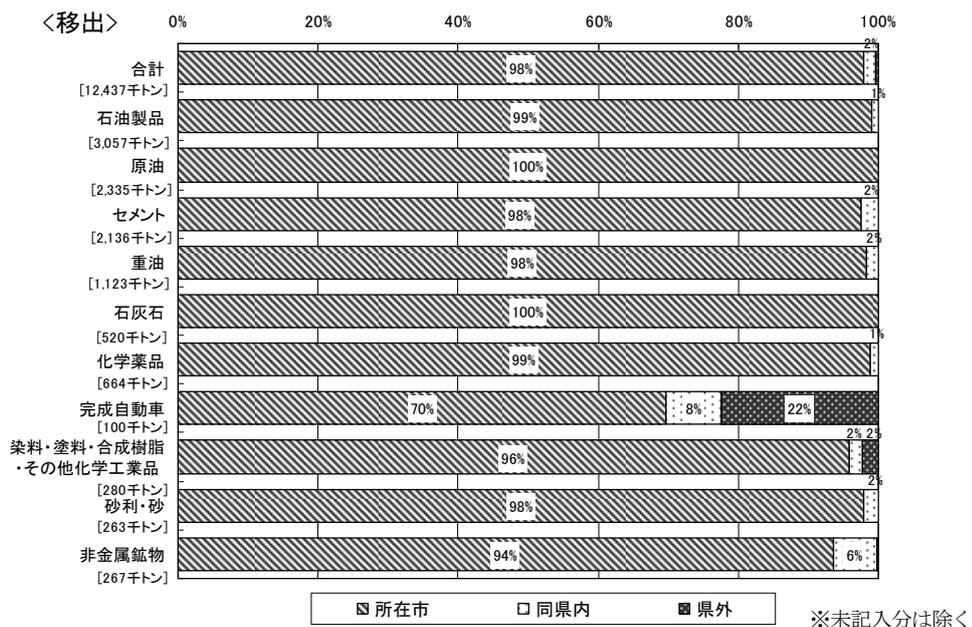


図-3.3.3 移出：品目別背後圏構成比

#### 4) 移入（上位 10 品目）

取扱貨物量上位 3 品目を見ると、1 位の石油製品では、港湾所在市町村内が 96%、港湾所在市町村外県内が 4%であった。2 位の原油では、港湾所在市町村内が 100%であった。3 位のセメントでは、港湾所在市町村内が 94%、港湾所在市町村外県内が 6%であった。

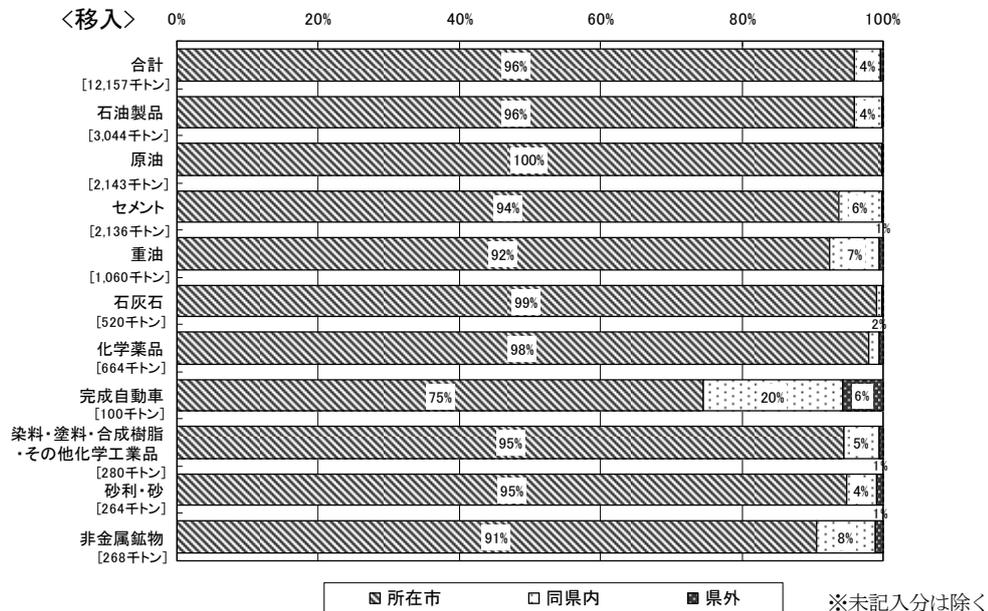


図-3.3.4 移入：品目別背後圏構成比

## 4. 調査結果の評価

今回の調査は初めて実施したものであるため、今回の調査で収集したサンプルが、現実の流動量に対してどの程度の比率を占めるかを、品目毎に算定することを試みた。

実際には、現実の流動量を完全に把握することは困難であるため、「平成 19 年港湾統計（年報）」の貨物量を 12 等分したものを、便宜的に比較対象に用いることとした。

なお、比較対象値である「平成 19 年 港湾統計（年報）」は、今回調査とは調査年が異なるとともに、年報の貨物量を便宜上 12 等分して算出した値を用いていることに留意する必要がある。加えて、本調査期間が 2008 年 9 月のリーマンショックより後であるのに対し、比較に用いた「平成 19 年 港湾統計（年報）」の調査期間は、リーマンショックより前であることにも留意が必要である。

港湾統計（年報）と比較した結果は表-4.1、4.2 の通りである。港湾統計（年報）との比較による比率は、輸出が 21.3%、輸入が 51.0%、内貿が 29.1%となり、全体で 39.8%となった。輸入貨物で高く、輸出貨物、内貿貨物では低い値となった。これらの要因として以下のことが想定される。

すなわち、輸入貨物は、「石炭」、「鉄鉱石」、「原油」といった全体の 82%と高いシェアを占める大宗品目について、それぞれ、石炭 59%、鉄鉱石 68%、原油 73%と高い比率を得たため、全体としても比率が上がったと考えられる。

また、輸出貨物は、「完成自動車」、「鋼材」が両品目で全体の64%と高いシェアを占めるが、これらの比率は、いずれも22%と低く、これが全体の比率にも反映されたと考えられる。また、貨物量は比較的小さいが、農水産品、林産品、軽工業品、雑工業品などの回答がほとんどなく、回答を得た品目に偏りが見られることも一因と考えられる。

内貿貨物については、外貿貨物に比べると圧倒的なシェアを占める品目は少ないが、輸出貨物と同様に、比較的高いシェアを占める石油製品、完成自動車のうち、特に完成自動車の比率が7%と少ないことが、全体の比率を下げる要因となっていると考えられる。

いずれにしても、太宗貨物（品目）の比率が調査全体の比率に大きく影響していると考えられる。

以上より、今回の調査は、港湾統計（年報）との比較による比率が4割程度に留まることが分かった。本調査の結果を用いる場合は、この点に留意する必要がある。今後、調査票の改善と調査対象者への協力要請の強化等により回収率の向上が実現できれば、調査の有効性は高まるものと考えられる。

表-4.1 港湾統計（年報）との比較による回答状況の整理

（単位：千トン）

		輸出	輸入	内貿	計
今回調査値	貨物量(A)	3,366	35,960	13,409	52,736
	割合	6.4%	68.2%	25.4%	100.0%
平成19年港湾統計(年報) (年報値の1/12)	貨物量(B)	15,824	70,532	46,036	132,392
	割合	12.0%	53.3%	34.8%	100.0%
比率	(A)/(B)	21.3%	51.0%	29.1%	39.8%

※内貿は移出貨物を使用

表-4.2 各品目の貨物量と港湾統計（年報）との比較による比率

順位	輸出			輸入			内貿		
	品目名	貨物量 (千トン)	比率	品目名	貨物量 (千トン)	比率	品目名	貨物量 (千トン)	比率
1	完成自動車	1,601	22%	原油	12,935	73%	石油製品	3,073	47%
2	鋼材	540	22%	石炭	8,702	59%	原油	2,335	71%
3	石油製品	250	31%	鉄鉱石	7,758	68%	セメント	2,148	60%
4	金属くず	192	38%	LNG(液化天然ガス)	2,299	21%	重油	1,123	28%
5	化学薬品	153	16%	木材チップ	1,077	46%	石灰石	1,078	32%
6	石灰石	116	53%	重油	732	154%	化学薬品	695	31%
7	セメント	105	17%	原塩	434	93%	完成自動車	336	7%
8	染料・塗料・合成樹脂・ その他化学工業品	89	158%	麦	265	47%	染料・塗料・合成樹脂・ その他化学工業品	280	198%
9	原塩	69	0%	原木	228	29%	砂利・砂	279	9%
10	砂利・砂	68	37%	金属鉱	190	17%	非金属鉱物	275	26%